



食と農のわくわくSDGs学習

令和6年度実施校 実践事例集



新潟市
新潟市教育委員会



新潟市食育・花育推進キャラクター
まいかちゃん

目 次

令和6年度実施校

1. 小須戸小学校(3年)	
「だいすきにいがた『大豆の町 小須戸』」	1
2. 大鷲小学校(5年)	
「私たちは米作り応援団！！」	3
3. 新飯田小学校(6年)	
「大好きにいがた体験 ゆめタウンにいだ」	5
4. 白根小学校	
「おいしいね！しろねの『食』探検隊～『食』について考えよう～」(5年)	7
「作ろう 学ぼう 大豆のチカラ」(3年)	9
5. 内野小学校(3年)	
「内野の恵みを大発見！新たな内野ブランドへの挑戦！」	11
6. 赤塚小学校(3～6年)	
「大好き新潟『佐潟と共に』」	13
7. 笠木小学校(5・6年)	
「大好きにいがた『笠木っ子米プロジェクト』」	15
8. 中之口東小学校(3年)	
「おいしさいっぱい 中之口」	17
9. 南浜中学校(1年)	
「南浜サツマイモプロジェクト(SP)」	19
10. 小合中学校(1年)	
「地域の農業、特産物を学ぼう」	21
11. 小新中学校(2年)	
「前期：小新ハローワーク(私たちが、よりよく生きるために取り組んでいきたい仕事)」	
「後期：小新ジャーニー(新潟の過去・現在を知り、未来を語り合おう)」	23
12. 新潟青陵高等学校(1年)	
「青陵米プロジェクト」	25
13. 新潟第一高等学校(1年)	
「新潟の『食』と『農』を専門的に学び、考え、深めよう！」	27
14. 日本文理高等学校(1・2年)	
「食・農に関する調査活動や体験活動を通して、食の大切さを知り、行動したり発信したりしよう」	29
15. にいがた製菓・調理専門学校えぷろん(調理技術科2年)	
「食育活動」	31
16. シェフパティシェ専門学校(2年)	
「地域(新潟市、新潟県)の特産品を活用した商品開発をしよう」	33
17. 新潟医療福祉大学(3年)	
「公衆栄養プログラムの作成」	35
18. 新潟国際情報大学(1～4年)	
「SDGs 食と農プログラム」	37

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	小須戸小学校		学年	第3学年（35名）		
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	2 飢餓をゼロに 4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任つかう責任		
単元名	だいすきにいがた「大豆の町 小須戸」（67時間）					
ねらい	大豆を使った食品を調べたり、実際に作ったりする活動を通して、伝統的食品について知り、日本の食文化などに関心をもつことができる。					
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識）大豆の育て方や大豆を使った食品について知るとともに、地域の食に関わる人々の思いや地域の食の特徴を理解する。 ・（自在に活用する技能）大豆を使った食品について調べ、食品を加工することのよさや地域の人々の工夫や努力に気付く。 ・（探究的な学習のよさの理解）疑問や関心を持ったことについて自分で調べたり、地域の人に聞いたりして課題解決することのよさに気付く。 【思・判・表】・（課題の設定）小須戸の大豆の学習を通して、食や地域貢献に関わって課題を設定することができる。 ・（情報の収集）豆菓子製造メーカーやみそ・しょうゆ工場を見学し、情報を収集することができる。 ・（整理・分析）得た情報を整理し、特徴や工夫を考えることができる。 ・（まとめ・表現）相手に応じて分かりやすくまとめ、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）地域のよさや自分にできることについて進んで考えている。 ・（主体性・協働性）進んで課題解決に向けて調べている。友達と協力しながら活動している。 ・（将来展望・社会参画）自分と地域とのつながりに気付いている。					
4 月		5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
・ どうして小須戸では豆を使ったお店が多いのか、学習への意欲をもつ。 ・ 大豆の栽培・加工について本などで調べ、自分なりの課題を設定する。 ・ 枝豆の苗を植える。 ・ 地域の大豆作りの専門家の話を聞く。（10時間）		・ 地域の大豆作りの専門家や畑の土づくりの専門家の協力を得ながら、大豆を栽培する。（7時間） ・ 枝豆の収穫 ・ 中間まとめ・発表（4時間） ・ 地域の豆菓子製造メーカー、醤油・味噌工場を見学し、大豆の加工や工夫について知る。（10時間） ・ 新潟市の他の地域の地場産物やその加工品について外部人材に話を聞く。（2時間）				
専門家講師の派遣			専門家講師の派遣			
【食育推進委員】 報償費 5,000 円			【食育推進委員】 報償費 5,000 円			
10 月		11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
・ アグリパークで豆腐・きな粉作りをし、大豆の加工や工夫について知る。（8時間） 新潟市の農業について、自分にできることを考える。（8時間） ・ 食花課作成動画「新潟市の農業の現状」の活用		・ 大豆の収穫と乾燥 ・ 大豆や豆腐を使った料理を調べたり、考えたりする。（8時間）		・ 1年間の学習・今後の市の農業について自分にできることについてまとめ、全校や保護者に発信する。（10時間）		
交通費の支援（アグリパークへ）			専門家講師の派遣		学習成果の発信	
バス代 30,000 円（30000 円×1学級）			【食育推進委員】 報償費 5,000 円			



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 小須戸小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・毎年、総合的な学習の時間に地元の特産品である大豆について学んでいるが、今回SDGsと関連付け、新潟市の農業について考える視点を最後のまとめに入れた。
- ・敷地内の広い畑を利用し、地域の大豆づくりの専門家や畑の土づくりの専門家から教えてもらいながら、枝豆と大豆を栽培した。
- ・地域にある大豆を使った豆菓子製造メーカーや醤油・味噌工場を見学しながら、大豆の加工の仕方や美味しく製造する工夫を学んだ。
- ・今回のSDGs学習で新潟市アグリパークを訪問し、豆腐やきな粉づくりを体験しながら、新たに大豆の加工や製造の工夫を学んだ。
- ・地元小須戸で今まで体験してきた活動と新潟市の農業の現状について、食育推進委員佐藤さんから話を聞き、今の自分たちにできることは何か考えた。
- ・学習参観で保護者に、今回の総合的な学習の時間で学んだ地元小須戸の特産「大豆」の魅力や新潟市の農業について考えたことを発信した。

2 主な協力団体・協力者等

- ・食育推進委員 佐藤千穂子 様
- ・マルタスギヨ株式会社 様
- ・株式会社 内山藤三郎商店 様
- ・体験活動 新潟市アグリパーク 様



佐藤様から新潟市の農業の現状を学ぶ

3 成果

- ・食育推進委員の佐藤様に、大豆づくりや枝豆づくりについて教えていただくことで、食への関心を高めることができた。
- ・地元小須戸にある醤油・味噌工場や豆菓子製造メーカーを見学することで、地元への愛着をもつきっかけとなった。
- ・大豆を通して食に関する様々な課題を見つけるなど、よりよい食のあり方について考え、発信することができた。

<学習後の児童の振り返り>

- ・「農業をするのってすごく大変だなと実感しました。私の祖父が農家なので農家の皆さんを応援したいと思いました。」
- ・「大豆や枝豆を育てて見学も行って、豆腐作りもして大豆のことをもっともっと知ることができました。そして、農業をやってみたくくなりました。家でも育ててみたいです。」
- ・「豆腐作りではアグリパークの先生、ボランティアさんが手伝ってくれて感謝の気持ちでいっぱいです。佐藤さんのおかげで農業のことをもっと知りたくくなりました。」
- ・「佐藤先生の話聞いて、大豆ってこんなに栄養があるんだなと思いました。そして、農業のあとを継ぐって大変だなと思いました。」
- ・「ぼくは、農業はお世話が大変だなと思いました。もっと人数が増えたら楽なのかなと思いました。ぼくも協力してみようかなと思いました。」



畑から大豆を収穫



内山藤三郎商店を見学



アグリパークで豆腐作り

4 課題

- ・作物を育て加工するには1年間で学習を完結することは難しく、年度をまたぐ活動計画が必要である。
- ・発表に向けた準備の時間の確保と調整が難しかった。
- ・前年度中からSDGs学習の取組について共通理解した上で取り組みたいが、年度末になかなか時間が取れず、新年度が動き出してからになってしまった。



学習参観で保護者へ発信

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	大鷲小学校		学年	第5学年（10名）							
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	8 働きがいも経済成長も 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさを守ろう							
単元名	私たちは米作り応援団！！（70時間）										
ねらい	地域で盛んな農業について体験し、調べる活動を通して、農家の人々の苦労や思いを知り、環境・食糧問題、農業と気候とのかわりについて考え、未来の農業の在り方を提案・発信することができる。										
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識）水田は治水や多様な生物のすみかとして、自然環境に大切な役割があることが分かる。 ・（探究的な学習のよさの理解）米作りの課題を解決する方法を探ることで、課題にかかわる新しい知識や技能を知る。 【思・判・表】・（課題の設定）実際に米作りに携わっている人から米作りの課題を的確に聞きとる。 ・（情報の収集）課題解決のための情報を収集する方法を知る。 ・（整理・分析）収集した情報を整理し、課題解決の方法を導き出す。 ・（まとめ・表現）どんな方法で発信するとよく伝わるかを考えて、まとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ・（主体性・協働性）自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ・（将来展望・社会参画）課題解決の方法を考え、「私たちにできること」を考え、発信しようとしている。										
4月		5月		6月		7月		8月		9月	
・米作り指導者から、米作りの方法と現在の課題について学ぶ。（田植え体験、水田の重要性〈治水や防災、多様な生物等〉、講義） →米作りの課題を捉え、その解決方法にはどんなものがあるのかを調べる。 ・温暖化・被災・後継者不足・消費量の減少・減反 ・外国米の輸入増加（10時間）				・米作りの課題を明らかにし、課題ごとに調査する。（インターネットや本で情報収集） →課題解決のために、どんな実践や研究があるのかを項目ごとに調査する。（大学、JA、アグリパーク、スマート農業従事者、第6次産業従事者等）（見学、講師招聘、体験）（20時間）				・調査結果をまとめ、「私たちにできること」を考え、企画書を作成する。（稲刈り体験） →ここまでの調査結果をまとめる。企画をもとに関係者と連絡を取り合い、調整。（10時間）			
専門家の情報提供				交通費の支援				交通費の支援		専門家講師の派遣	
				使用料及び賃貸料 バス代 16,840円 新潟大学				使用料及び賃貸料 バス代 14,860円 そら野テラス		第6次産業従事者 10,000円 そら野テラス	
10月		11月		12月		1月		2月		3月	
・「私たちにできること」として、消費量をあげ、災害対策にもなる米粉を活用した非常食レシピを考案する。 →米粉で非常食レシピを考え、実際に作ってみる。（アグリパークでの米粉製造、野菜ソムリエの協力によるレシピ考案）（調理、試食会、販売）（15時間）				・未来の米作りについて、現在の課題とその解決方法を提案し、「私たちにできること」として挑戦したことを発信する。 →米作りの課題解決のために、どんな実践や研究が進んでいるのかをまとめ、発表する。また、考案した米粉によるレシピを検討、試作会・試食会を行う。 →これまでお世話になった講師の皆さん、南区長さんとシンポジウムを開く。 →米粉クッキーを販売する。（15時間）							
交通費の支援				学習成果の発信				専門家講師の派遣			
使用料及び賃貸料 バス代 18,820円 シェフパティシエ専門学校				報償費 事業者 10,000円 サニーデイズ							



SDGsで3つの視点を

□ : 未来も
 □ : まわりも
 □ : みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 大鷲小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- これまでの5年生の総合的な学習では、子どもたちの課題意識が明確ではなかった。単元の初めに、地域の米作り指導者を講師に招き、現在の米作りの課題について話を聞いた。課題をしっかりと捉えることで、子どもたち自身が何を目指し追究していくのかを知り、見通しをもって活動に取り組めるよう単元を構成した。
 - いくつかの課題を、どのように解決していったらよいか、ポイントとなる見学場所や講師の選定を、新潟市農林水産部 食と花の推進課に相談しながら決めていった。
 - 米作りの課題として、①温暖化②後継者不足③消費量の減少という3点に絞り、問題解決に取り組むことにした。
- ①について 新潟大学社会連携推進機構特任教授三ツ井敏明様が、温暖化に強い「新大コシヒカリ」を開発したことを新聞で読み、特別授業をしていただくことにした。
- ②について 「農家を応援したい」という気持ちからレストランや直売所の会社を立ち上げた「そら野ファーム」藤田友和様から授業をしていただくことにした。実際にお店を訪問することで、魅力的な売り場や商品を見る体験を計画した。
- ③について 消費量を上げるために、主食として米を食べるだけでなく他の食べ方はできないか、子どもたちで話し合った。その結果、米粉を使ったクッキーの販売を計画した。

2 主な協力団体・協力者等

- 新潟大学社会連携推進機構 特任教授 三ツ井 敏明様
- そら野ファーム 藤田 友和様
- シェフパティシエ専門学校様
- SUNNYDAYS 雪井 幸太郎様
- 新潟空港様
- 新潟市アグリパーク様
- 新潟市農林水産部 食と花の推進課



三ツ井教授の特別授業



そら野テラス見学



専門学校での調理体験



米粉で作った「こめっ子クッキー」を新潟空港で販売

3 成果

- これまでには南区の米作りについて考えるだけであったが、新潟県や日本の農業全体に視野を広げることができた。20年も前から温暖化への対策に品種改良を研究していた三ツ井様、農家の応援団として自ら起業をした藤田様など、未来に持続可能な農業を模索している人々との出会いは、子どもたちの農業への目を開き、自らの行動を考えさせる大きなきっかけとなった。
- シェフパティシエ専門学校様で、子どもたちが考えた米粉クッキーをレシピにいただき、試作した。アイデアが形になり叶うという体験は、子どもたちにとって大きな自信となった。
- 米粉クッキー（米、笹団子、枝豆、柿の種、イチゴ）をSUNNYDAYS様により商品化していただき、新潟空港で販売した。他県や外国の人たちに、新潟県の名産品とクッキーの説明をしながら売ることができた。1年間の学習のまとめとして、有意義な“発信の場”となった。

4 課題

- 見学場所や講師の選定、商品化に協力していただける店など、学校だけでは情報やつながりがなく、紹介をしていただきありがたかったので継続してほしい。

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	新飯田小学校		学年	第6学年（19名）		
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	8働きがいも経済成長も 12 つくる責任 つかう責任 11住み続けられるまちづくりを		
単元名	「大好きにいがた体験 ゆめタウンにいだ」（17時間）					
ねらい	地域の梨（またはブドウ）栽培について調べたり体験したりする活動を通して、地域の栽培農家の方々の思いに気づき、地域の誇りをもって今後の地域や新潟市のために自分たちができることや協働して取り組むべきことを考え、実行できるようにする。					
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識）新飯田地区の梨栽培は、地域の農家の思いによって継続していることを理解する。 ・（自在に活用する技能）目的や対象に応じた調査活動を実施することができる。 ・（探究的な学習のよさの理解）地域の特産品を作り出すことは、地域創生及び持続可能な社会を実現するために解決すべき課題の解決につながることに気付いている。 【思・判・表】・（課題の設定）梨栽培や販売について、自分なりの課題を設定するとともに、解決に必要な方法を明確にしながらか計画を立てている。 ・（情報の収集）梨栽培や販売について、現状や問題点を理解するために必要な情報を目的に応じた方法を選びながら収集している。 ・（整理・分析）梨の生産が地域の誇りになるために、加工方法や広報活動を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な活動を決定している。 ・（まとめ・表現）今後の地域や新潟市のためにできることを考え、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）新飯田地区の梨を広めたいという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している ・（主体性・協働性）自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探求活動に取り組んでいる。 ・（将来展望・社会参画）自分と地域の農家、飲食店とのつながりに気づき、地域の活動に参加するとともに、地域のためにできることを考え行動している。					
4月		5月	6月	7月	8月	9月
① 新飯田の魅力について知ろう（5時間）				② 新飯田の魅力をひろめよう		
・新飯田の魅力について話し合う。 ・新飯田の梨農家を訪問し、梨の生育過程を観察する。特徴、栄養、歴史、産地などについて調べる。		・農家へ訪問し、梨の生長を観察する。 ・摘果作業を手伝う。 ・梨を生育する農家から、地域農業の可能性について話を聞く。	・情報発信の方法を考える ・生長が思わしくない果実がどうなるのか知り、果物の加工について調べる。	・販路（新飯田市場、アグリパーク、いくとびあ、いっぺこ〜と）を検討する。		
専門家の情報提供				専門家講師の派遣		
				報償費 梨農家 5,000円		
10月		11月	12月	1月	2月	3月
梨ジェラート販売プロジェクト（6時間）			③ 新飯田の魅力ををとなげよう（6時間）			
・食品ロスとなる可能性のある規格外の梨について、SDGsの観点から活用するための方法を考える。 ・梨と同様に、大切に育てられた果物や野菜などの一部が廃棄されていることを知り、食品ロスに対する問題意識を高める。 ・新飯田の梨のイメージキャラクターや、販売をするためのチラシづくりを行う。 ・梨の魅力をより多くの人に知ってもらうために販売会を行う。			・新飯田の梨をもとに、新飯田地区の魅力を伝えるために自分たちができることを考える。 ・考えたことを区に発表する。 ・今後も新飯田地区に人々が住み続けられる街づくりのためにできることを考え、実行する。			
専門家講師の派遣 （デザイナー（DERTA））		交通費の支援		学習成果の発信		専門家講師の派遣
報償費 デザイナー講師×1＝10,000円		バス代 18,820円（18,820円×1学級）		報償費 梨農家 5,000円		



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 新飯田小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

これまでの6年生の総合では、新飯田地域の魅力について地域に広めてきた。昨年度の6年生から、「もっと他の地域にも広めたかった」という話を聞き、今年度は、「新飯田の魅力を他の地域にも広めよう」という目標を立てた。

【課題設定】新飯田の魅力について知ろう。⇒『果物』

【情報収集】梨農家さんへ、梨の成長についてインタビューをしよう。(佐藤恵潤 様)

☆規格外の梨が廃棄されていることに気付く。

⇒「何とか活用したい！」(SDGsの視点)

【整理・分析】

- ・規格外の梨の活用方法を考える。⇒梨ジェラート
(JA新潟かがやきファーマーズ・マーケット いっぺこ〜と)

- ・梨ジェラートの販売方法を考える。

I. 新飯田市場 II. 学習参観日 III. いっぺこ〜と

- ・チラシ作り(デザイナー:阿部 光一朗 様)

【まとめ・表現】

南区未来創造教室にて、南区長様や関係者へ実践発表。

2 主な協力団体・協力者等

- ・梨農家:佐藤 恵潤 様
- ・アートディレクター/デザイナー:阿部 光一朗 様
- ・米持文四郎商店 様
- ・星野株式会社:佐藤 様
- ・大野精工株式会社:社長 大野 雅史 様
- ・JA新潟かがやきファーマーズ・マーケット 「いっぺこ〜と」 様
- ・新潟市アグリパーク様
- ・食と花の推進課

3 成果

◎探究的な見方・考え方を働かせ、児童主体の活動となった。

◎実社会や実生活の中から問いを見だし、自分たちで課題を立て、情報を集め、整理分析をして、まとめ・表現することができた。

(児童の振り返り)

- ・食品ロスは大きな問題なので、ジェラート販売を通して、規格外の梨でもまだ食べられるということを新飯田の外にも広めることができた。
- ・農家の人の大変さを学ぶことができた。新飯田の良さや農家さんの大変さを少しでも広めることができたと思う。自分も新飯田の活性化に協力できるように頑張りたい。
- ・心に残ったことは、新飯田の良さをアピールしたことや、SDGsに貢献できたことだ。大変なこともあったけど、自分たちで企画して、実際に行うことがとても良い経験になった。
- ・これからも地産地消をしたり、新飯田のために貢献したりすることを頑張りたい。



梨農家へインタビュー



デザイナーによる出前授業



I.新飯田市場での
ジェラート販売



II.学習参観日での
ジェラート販売



III. いっぺこ〜とでの
ジェラート販売

4 課題

- ・学校支援課、食と花の推進課、地域教育コーディネーターなど、様々なサポートがあり充実した活動となった。予算面でももう少し支援があるとありがたい。
(バス代、消耗品等)



南区未来創造教室にて区長へ実践発表

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	白根小学校		学年	第5学年（86名）					
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	12 つくる責任 つかう責任					
単元名	「おいしいしろね！ しろねの『食』探検隊 ～『食』について考えよう～」（70時間）								
ねらい	・南区白根の食料生産や農産物の特色に気付き、人、もの、ことにかかわる探求的な学習活動を通して、今後の地域や新潟市のために自分ができることや協働して取り組むべきことを考え、実行できるようにする。								
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識）新潟市南区は農業が盛んで、様々な人たちが関わっていることを理解している。 ・（自在に活用する技能）インタビューや質問などによる調査を目的や場面に応じた方法で実施している。 ・（探究的な学習のよさの理解）自分の地域の米作りのために自分で考えて行動することは、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題の解決につながることに気付いている。 【思・判・表】・（課題の設定）地域の農業について関心をもち、課題をつくり、解決の見通しをもっている。 ・（情報の収集）課題の解決に必要な情報を、収集している。 ・（整理・分析）課題解決に向けて、収集した情報を整理・分析している。 ・（まとめ・表現）相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）課題解決に向け、主体的に探究活動に取り組んでいる。 ・（主体性・協働性）他者とよりよく関わりながら、協働して学び合っている。 ・（将来展望・社会参画）地域との関わりの中で、自分にできることを見付けようとしている。								
4月		5月		6月		7月	8月	9月	
・南区白根の農業に関することについて情報を集める。 ・南区（白根）の米作りについての話 ・田植え体験をする。（10時間） ・南区白根の食に関する課題について情報を集める。 ・南区白根の農業について考え、課題を設定する。（15時間） ・稲の成長の様子を見学し、手入れをする。（5時間） ・稲刈り体験をする。（5時間）									
専門家の情報提供		専門家講師の派遣							
		農家の方 JA 職員							
10月		11月		12月		1月		2月	3月
・スマート農業を行っている農家や農業関連工場に見学に行く。 ・学校田で収穫した米を米粉製粉機を活用して実習を行う。（10時間） ・収穫した米を使って、調理実習を行う。（10時間） 南区白根の今後の農業について、学習をふり返り、まとめる。（15時間）									
交通費の支援				学習成果の発信					
交通費の支援額									
① バス代 90,000 円（30,000 円×3学級）									
② バス代 90,000 円（30,000 円×3学級）									



SDGsで3つの視点を

□ : 未来も
 □ : まわりも
 □ : みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 白根小学校 5 学年

1 本単元作成のポイント、留意点等

児童は、3・4 学年の社会科の学習から、「南区には広大な田や畑があり、農業が盛んである」ことを理解している。そこで、5 年生では、田植えや稲刈りの体験を通して、農家の仕事を学んだり収穫の喜びを味わったりする従来の活動から、SDGs の視点を入れることで、さらなる学習を充実させることを目指した。その際、以下のポイントに留意して活動に取り組んだ。

① 新潟の農業の未来について考える

- ・講師を招き、新潟市の農業の昔と今について学習した。その課題から現在では、農業のスマート化の工夫がより実践されていることを知った。
- ・社会科と連携し、米以外の作物についても調べ、課題を探った。

② 持続可能な農業のため、「米の活用」について探求する

- ・調べ活動により、米は形を変えて、食されていることを学習する。米の消費拡大や食料自給率向上のためには米粉の活用が有効であることを知った。
- ・米の活用法の一例として米粉に着目し、アグリパークで、学校田で収穫した米を米粉にしてもらい、米粉と小麦粉の比較した調理実習を行った。



2 主な協力団体・協力者等

- ・JA 新潟かがやき白根北アグリセンター様
- ・新潟市アグリパーク様
- ・学校田管理者様
- ・きゅうりハウス所有者様
- ・地域ボランティアのみなさん
- ・新潟市食と花の推進課

3 成果

本単元を通して、児童は米作りを体験し、農業従事者の苦労や工夫を理解することはもちろん、スマート農業を行っているきゅうりハウスの農家の話を聞き、南区白根における持続可能な農業について考えを深めた。また、米の消費拡大や生産拡大のために米粉の活用が有効であることや食料自給率の向上にもつながっていくことを学習し、米粉のよさを広げていきたいと意欲を高めることができた。

(以下児童の学習の振り返り)

- ・きゅうりハウスでは、気温や湿度の管理が大切であることが分かった。スマートフォンで管理することで、農作業の負担が軽減されるなどメリットがたくさんある。
- ・地産地消は、食糧自給率の向上に役立つ。自分たちの地域でとれたものをもっと食べたいと思った。



きゅうりハウス見学

- ・新潟市は米の生産量が全国 1 位だけど、米を意外と食べていないことを知った。米の消費拡大のために、米粉を使った料理を広げていきたい。
- ・米粉は小麦粉アレルギーの人でも食べられることから、米粉のパンや米粉の麺などが広がればいいと思う。



アグリパーク体験活動

- ・アグリパークで米粉と小麦粉の違いを学習した。米粉はダマができてくらく、調理しやすかったので、いろいろな料理に役立ちそうだったと思った。



米粉を使った調理

4 課題

・児童に白根の食や農業への関心を持たせることが難しかった。田植えや稲刈りが単なる体験にならないように、来年度は、単元の最初に講師を招き、新潟市の農業の課題や農家の方の苦労や工夫を学習してから、自分たちで課題を設定し、探究できるように計画を工夫する必要がある。

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	白根小学校		学年	第3学年（61名）			
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	12 つくる責任 つかう責任			
単元名	作ろう 学ぼう 大豆のチカラ（70時間）						
ねらい	大豆を育てるなかで問いを見出し、解決に向けて調査したり、情報を基に考えたりする力を育む。 大豆について、発見したり考えたりしたことをまとめたり、表現したりする力を育む。 大豆を育てたり、調理したりするなかで、地域の人たちとかかわりを深めようとする態度を育てる。						
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識）白根地区は農業が盛んで、今後も農業への取組や人とのつながりは大切にしていくべきものであることを理解している。 ・（自在に活用する技能）調査活動を目的や対象に応じて実施することができる。 ・（探究的な学習のよさの理解）自分の地域のために自分で考えて行動することは、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題の解決につながることに気付いている。 【思・判・表】・（課題の設定）大豆作りについての関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。 ・（情報の収集）解決の見通しをもって、講師や家族、インターネットや書籍などを活用して情報を収集している。 ・（整理・分析）課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し蓄積している。 ・（まとめ・表現）課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し蓄積している。 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）地域との関わりの中で、自分にできることを見付けようとしている。 ・（主体性・協働性）課題解決に向け、協働して学び合おうとしている。 ・（将来展望・社会参画）年間を通した大豆の学習から、「大豆をもっと食べよう」という将来への展望をもつ。						
4月		5月		6月	7月	8月	9月
・「白根をしょうかいしよう」で取り組み、白根の地域に関心をもつと共に総合で活用しているスキルを学ぶ。 ・白根から新潟に広げて考え、新潟が農作物の産地であることと、＜食育＞での大豆の学習から「大豆をもっと食べよう」（仮定）という課題をもつ。 (10時間)		・大豆を好きになるために、農家の方に栽培方法を教えてもらいながら、自分たちで大豆を育てる活動を行う。 ・大豆の栽培の仕方や大豆について調べ活動を行う。 (10時間)			・大豆を使った料理を調べ、夏休みに家庭で作り、休み明けに発表する。 ・国語の「すがたをかえる大豆」より大豆の加工品を知り、加工品から栄養をとる良さを考える。 ・枝豆を収穫・試食する。枝豆のおいしさの秘密について調べる。 (10時間)		
専門家の情報提供		講師の派遣		講師の派遣			
		報償費 大豆の先生 5,200 円		報償費 栄養士 7,600 円 大豆の先生 5,200 円			
10月		11月	12月	1月	2月	3月	
・大豆の収穫・脱穀をする。(10時間)		・大豆について調べたことや体験したことをまとめ、思ったことや考えたことをまとめる。 (5時間)		・大豆を調べる活動に協力してくださった地域の方やお家の方に調べたことや自分たちが考えたことを感謝の会で伝える。(5時間)		・「大豆をもっと食べよう!」で、自分たちが調べて分かったことなどを全校に呼びかける。(5時間)	
・大豆の加工品を作る。(豆腐・きなこ・みそなど) (15時間)							
講師の派遣		講師の派遣		専門家講師の派遣		学習成果の発信	
報償費 大豆の先生 5,200 円		報償費 大豆の先生 5,200 円		報償費 みそ作りの先生 5,500 円			
		交通費の支援					
		交通費の支援額 バス代 60,000 円 (30000 円×2学級)					



SDGsで3つの視点を

未来も まわりも みんなも

学校名 白根小学校 3 学年

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・新潟市は、米作り以外にも農作物の生産が盛んである。南区は、田畑が広がり、新鮮で栄養価の高い野菜作りがさかんな地域である。しかしながら、給食の残さの量が増え、野菜や大豆などの豆類を苦手好き嫌いをする児童が目立っている現状がある。白根小学校では、総合的な学習の時間において、以前から地域の方のご厚意で畑を貸してもらい、大豆作りに取り組んできた。そこで、大豆を一から育てることで、大豆への関心を高め、大豆に愛着がもてるようにした。
- ・白根小学校で長年作り続けている大豆の品種は、「えんれい」という銘柄で希少価値が高いため、この品種を今後も受け継ぎ、後世まで守っていく。
- ・今年度も地域と連携しながら、昔ながらの大豆作りを経験するとともに SDGs の視点を取り入れて、大豆のよさを再確認した。
- ・大豆をもっと身近で有能な食材として児童が関心をもてるように、出前授業（栄養士高橋政子様）を実施した。大豆は、豆腐や味噌、納豆、醤油など私たちの身近にある様々な食べ物に姿を変えている点や、大豆には、①体をつくる、②骨や歯のもとになる、③便通をよくする、など人間の機能を維持する上での大きな3つの働きがある等、児童の知らない大豆の魅力を教えてもらった。また、児童が好む白玉やハンバーグ等、親子で大豆を使った簡単レシピ(夏休みの課題)に取り組むことで、大豆のよさを家族に発信することにした。
- ・地域力を生かして、糍屋団四郎の藤井様を招き、秘伝の味噌作りを教えてください、手間をかけて美味しい味噌ができるという体験学習を行った。

2 主な協力団体・協力者等

- ・大豆の先生 今井剛様
- ・栄養士 高橋政子様
- ・新潟市アグリパーク様
- ・糍屋団四郎（味噌屋）藤井 寛様

3 成果

- ・栄養士の方から大豆の働きや魅力を教えて頂いたことで大豆への見方や考え方が変わった児童が多かった。
- ・一年を通して、大豆について体験及び調べ学習をしたことで、大豆の知識が増え、関心も高まった。
- ・豆腐、きなこ、味噌作りは、校内での実施は物理的に難しく、市の施設(アグリパーク)の提供や講師の方の協力のおかげで非常に充実した体験活動ができた。
- ・「食と農のわくわく SDGs 学習」推進事業に参加することで、それまでの総合的な学習の時間の内容が一層深まった。
- ・大豆の収穫後の豆落としでは、昔の道具「唐箕」を使い、風の力を利用した選別作業を行った。手作業の大変さや楽しさを児童が実感することができた。
- ・白根小学校で受け継がれている希少な品種の大豆を毎年継承することができている。

4 課題

- ・児童が意欲的に問題意識をもつための導入の仕方や講師の活用を検討する必要がある。居住地域や大豆に特化すると、該当する講師や協力者団体が少ない。もう少し、テーマや視点を広げた方がよい。
- ・今年度は、発信の機会や場が少なかった。次年度は、今年度の反省を引き継ぎ、目的や相手意識を明確にして、発信や提言という活動に重点を置いて、取り組んでいく。例えば、学校行事や参観日などたくさんの人が集まる機会に SDGs 学習に関する発表や発信の機会を意図的に設定していく。また、給食センターに大豆を使ったメニューの提案をするなどである。
- ・昨今の酷暑などの気象条件と活動時期や計画内容を見直す必要がある。学校行事や授業との調整も難しい。綿密に計画する必要がある。



アグリパークで豆腐作り



唐箕を使った豆落とし



味噌作り



児童オリジナルの大豆新聞

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	内野小学校		学年	第3学年（145名）							
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	15 陸の豊かさを守ろう							
単元名	内野の恵みを大発見！新たな内野ブランドへの挑戦！（70時間）										
ねらい	内野の自然がもたらす恵みについて、一株一果で育てる ikka かぼちゃの栽培方法や自然を活かした生産者の工夫や努力を調べたり、地域と連携した活動を考えたりすることを通して、地域の自然や人々の魅力に気付くことができる。										
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識）内野や近隣の地域は、砂丘地の特徴を活かしながら、農業生産に取り組んでいることを理解している。 ・（自在に活用する技能）農業の専門家の話や取組から、植物の育ち方の特徴に気付き、品質の良い農作物の栽培方法を身に付けている。 ・（探究的な学習のよさの理解）専門学校の生徒からのアドバイスを活かしながら、収穫した作物の魅力を引き出す調理方法について理解している。 【思・判・表】・（課題の設定）地域の特徴を活かした農業生産に関心をもち、課題をつくり、解決への見通しをもっている。 ・（情報の収集）課題解決に必要な情報を、手段を選択しながら集め、蓄積している。 ・（整理・分析）課題解決に向けて、収集した情報を取捨選択したり、整理したりすることができる。 ・（まとめ・表現）専門家等の意見を取り入れたり、収集した情報を活かしたりしながら、相手や目的に合わせて、分かりやすく表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）課題解決に向け、自分や友達、関係する人の考えのよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ・（主体性・協働性）課題解決に向け、友達や関係する人に意欲的にかかわり、共通点や相違点に気付き、折り合いをつけながら協働しようとしている。 ・（将来展望・社会参画）地域の特徴や抱えている問題を知り、地域の特徴を活かした農業生産について考え、自分にできることに取り組もうとしている。										
4月		5月		6月		7月		8月		9月	
・ ikka かぼちゃを食べる。 ・ ikka かぼちゃについて調べる。 ・ ikka かぼちゃを栽培している、すずまさ農園から話を聞く。 ・ かぼちゃを育てる。 (10時間)				・ すずまさ農園のかぼちゃを観察し、違いを知る。 ・ 一株一果と通常で育てたかぼちゃを収穫し、食べ比べをする。 ・ かぼちゃの追熟について調べる。 ・ 追熟した ikka かぼちゃを食べる。 (20時間)				・ かぼちゃの栽培や追熟したことを振り返る。 ・ 振り返りを基に、改めてすずまさ農園から話を聞く。 (5時間)			
交通費の支援						専門家講師の派遣					
使用料及び賃貸料 バス代 61,000 円						報償費 5,000 円					
10月		11月		12月		1月		2月		3月	
・ ikka かぼちゃの魅力を伝えるために、専門学校の生徒からアドバイスをもらいながら、ikka かぼちゃレシピを考える。 ・ 学習したことをまとめたポスターやレシピを発信する。 (15時間)				・ 新潟市の他地域の農作物について調べ、区ごとにまとめる。（「新潟市の農業の現状」の活用） ・ 区ごとの農作物のまとめをJA職員に発表し、新潟市が抱える農業生産や農作物の流通の問題点を知る。 (10時間)				・ 新潟市が抱える農業生産や農作物の流通の問題点から課題をつくり、課題解決に向けて取り組む。 ・ 課題解決の方法をまとめ、関係する人たちに提案する。 (10時間)			
専門家講師の派遣		学習成果の発信		交通費の支援		専門家講師の派遣		学習成果の発信			
報償費 専門高校生 無償				使用料及び賃貸料 バス代 150,000 円		報償費 JA 職員 無償					



SDGsで3つの視点を

未来も

まわりも

みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 内野小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- SDGs 目標「陸の豊かさを守ろう」を達成のために、今年度から「内野の恵みを大発見！新たな内野ブランドへの挑戦！」の単元を作成した。
- 本単元は「内野の自然がもたらす恵みについて、一株一果で育てる ikka かぼちゃの栽培方法や自然を活かした生産者の工夫や努力を調べたり、地域と連携した活動を考えたりすることを通して、地域の自然や人々の魅力に気付くことができる」ことをねらいとした。
- 1個4、500円で販売されているプレミアム ikka かぼちゃが、内野で育てられていることを知り、栽培方法や栽培の工夫について課題意識をもたせる。
- 生産者や栽培している畑と出合わせ、教材園で自分たちも、かぼちゃを栽培したいという気持ちを醸成する。
- 内野の新たなブランドとなる ikka かぼちゃの美味しさを多くの人に知ってもらうために、レシピを考えたり、調べたことを広報したりする気持ちを醸成する。



ikka かぼちゃ

2 主な協力団体・協力者等

- すずまさ農園 堀 将大 様 堀 美鈴 様
- シェフパティシエ専門学校 様



すずまさ農園の見学

3 成果

- 内野地域の砂丘地を利用して、ikka かぼちゃが栽培されていることが分かった。
- ikka かぼちゃの名前の由来や栽培方法について、生産者の堀様の話を聞いて理解した。
- 生産者の堀さんの話から、自分たちも学校でかぼちゃを育ててみたいという気持ちになり、教材園で、堀さんからアドバイスをもらいながら、かぼちゃを育てた。

- かぼちゃを育てることで、大風や病気、日焼け等の課題に直面し、課題解決に向けて、自分たちで解決方法を調べたり、堀さんに相談したりしながら、植物の命を守ることに考えた。
- 生産者の「多くの人に食べてもらいたい」という願いを実現するために、自分たちでできることとして、「美味しさを伝えたい」という気持ちをもち、伝える方法を考えた。
- 伝える方法として、「レシピづくり」と「宣伝活動」に取り組んだ。「レシピづくり」では、シェフパティシエ専門学校の先生から、専門的な立場でのアドバイスをいただき、レシピを再考した。「宣伝活動」では、新潟駅内の八百屋で ikka かぼちゃが販売されることから、新潟駅で宣伝活動を行った。地元の人だけでなく、新潟駅を利用する他県の人にも、広報活動することができた。また、広報活動時に、試食してもらいたいという子どもたちの願いを、シェフパティシエ専門学校から協力していただき、実現できた。



教材園でのかぼちゃ栽培

- 内野の特徴である砂丘地がもたらす自然の素晴らしさや一株一果という栽培方法を工夫している内野に住んでいる堀さんの素晴らしさに出会ったことで、内野地域に誇りを感じることができた。



新潟駅での試食活動



新潟駅での広報活動

4 課題

- レシピづくりから試しの調理をする過程は、3年生の発達段階から考えると難易度が高く、保護者や地域の学習支援ボランティアから協力していただくことで活動できたが、継続していくことが難しい。
- 新潟駅での広報活動は、子どもたちはとても意欲的に取り組んでいたが、地元の内野の人たちの知名度を上げることも必要だと感じた。次年度は、地域の市で販売できる方策を検討する。

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	赤塚小学校		学年	第3学年（44名） 第4学年（50名） 第5学年（51名） 第6学年（39名）							
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	11 住み続けられるまちづくりを 14 15 海 陸の豊かさを守ろう（潟）							
単元名	大好き新潟「佐潟と共に」（各学年50時間程度）										
ねらい	赤塚地域や佐潟の自然について学ぶことを通して、地域を支える方々の思いに気付き、地域の象徴である佐潟のかけがえのなさを理解し、佐潟と共に未来を生きる「私」をつくる。										
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識）赤塚地域の人々の生活は、昔から佐潟と共に歩み、成り立っていることについて理解する。 ・（自在に活用する技能）情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。 ・（探究的な学習のよさの理解）課題意識をもって、自分がやりたいことや、興味・関心をもってについてじっくり学ぼうとしている。 【思・判・表】・（課題の設定）地域の人々の想いをふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもって追求している。 ・（情報の収集）目的に応じて手段を選択し、情報を収集したり、必要な情報を選んだりしている。 ・（整理・分析）問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして、多様な情報の中にある特徴を見付けている。 ・（まとめ・表現）相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめ、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）自分のよさや自分にできることに気付き、異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重しながら探究活動に取り組んでいる。 ・（主体性・協働性）課題意識をもって自分なりの方法を工夫しながら、他者と協働して探究活動に取り組み、その大切さに気付いている。 ・（将来展望・社会参画）赤塚地域の農業や佐潟の自然の過去と現在について考え、自分なりの考えをもち、進んで地域に働きかけようとしている。										
4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
・佐潟に植生する植物、絶滅の危機に瀕するハスについて講話を聴き、ハスを栽培し、実際に潟に移植する。 (5年12時間) ・学校園に赤塚地域特産のスイカを植え、世話の仕方について教えていただく。(3年10時間)				・西区いっぺこ〜とで、赤塚のスイカ（主にルビームーン）の宣伝・PR活動をする。 (3年10時間)		・佐潟のカメの生態や捕獲等について講話を聴く。(6年3時間) ・学校園で収穫したスイカを食べる。(3年4時間) ・佐潟を訪問し、佐潟の水鳥について講話を聴く。(4年3時間)		・「佐潟まつり」に参加し、学習のテーマ曲「佐潟と共に」を合唱し、佐潟の環境や学校の取組についてPRする。 (6年5時間)		・学校園に赤塚地域特産の大根を植え、世話の仕方について教えていただく。 (3年10時間)	
学習成果の発信				専門家講師の派遣		学習成果の発信				専門家の情報提供	
県立植物園 職員 JA かがやき 職員				報償費 「佐潟と歩む赤塚の会」 5,200円×2名				報償費 農家の方 5,200円			
10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月	
・佐潟の生態系について講話を聴く。(5年2時間) ・佐潟の今と昔の様子について講話を聴く。(4年2時間) ・収穫したハス（レンコン）の活用方法を考え、地域に提言する。(6年10時間)		・赤塚の大根を地域の農家から購入し、大根加工体験をする。 (切り干し大根、たくあん漬け) (3年10時間)				・大根の加工食品を食べる「大根記念祭」を開く。(3年4時間) ・地域の伝統芸能「赤塚太々神楽」を、地域の方に教えていただく。(3年2時間)		・「ハス復活プロジェクト」報告会に参加し、赤塚小学校の取組について発表する。(5年10時間)			
専門家講師の派遣		専門家講師の派遣		学習成果の発信		専門家講師の派遣		学習成果の発信		専門家講師の派遣	
報償費 「佐潟と歩む赤塚の会」 5,200円×2名		報償費 食生活改善推進員 4,500円×3名 「ビュー福島潟」副館長 10,000円				「赤塚太々神楽」保存会の方 3名					



SDGsで3つの視点を

未来も

まわりも

みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 赤塚小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・「生態系の保護や回復、持続可能な利用の推進、生態系多様性阻害の推進を図る」という視点を、地域で環境系 YouTuber として活躍している方と連携して、外来種の防除活動に取り入れていった。
- ・地球温暖化 (CO2 排出量増加) につながる自身の行動を見直し、自分にできることから始めようと意識・実行する態度の育成を目指した。
- ・赤塚地域の自然環境 (佐潟の自然や歴史、砂丘地) について、過去と現在の様子を比較し、現在の課題と向き合い、未来の赤塚の在り方について考えさせた。
- ・地域の地形と農業の結びつきから、食の豊かさや大切さ、楽しさについて五感を通して学ぶことを目指した。



佐潟でハスの学習



佐潟の泥採取



スイカ畑の畝・ハウスづくり

2 主な協力団体・協力者等

食生活改善推進員 笹川 裕子 様

田中 順子 様 小林 三春 様

農家 山本 隼人 様 他

佐潟と歩む赤塚の会 久原 泰雅 様

赤塚・佐潟歴史ガイド 会長 太田 和宏 様

ビュー福島潟 副館長 佐藤 安男 様

地域の方 飯田 武 様 齋藤 敏夫 様 他

ともに一ね 様 佐潟・水鳥湿地センター 様

JA 新潟かがやき職員 様

3 成果

- ・佐潟の環境問題について理解を深めたり、それらの解決に意欲を高めたりできた。「在来種と外来種のための最善の方法が思いつかなかったのだが飯田さんの『外来種を肥料にするという方法は、命を無駄にしないとてもいいことだと思った』『60年前の佐潟の水は、透き通った水で飲料に適したほどのきれいさでびっくりした』『60年前と同じ佐潟を、いつか見られたらいいなと思った」。
- ・佐潟や赤塚地域での環境問題と、国内や世界で起こっていることをつなげて考える視点が大切だということに気付けた。
- ・昔の佐潟の姿や、そこに住む人々とのかかわりについて知ることができた。
- ・農作物を育てる体験を通して、農業の大変さを実感できた。
- ・農作物の収穫体験を通して、食べ物を得る喜びを実感できたり、仲間や家族と一緒に、食べることの楽しさを共有できたりした。
- ・一つの大きな課題に向けて、子どもたち一人一人が多面的・多角的に考え、実行することができた。
- ・保存食に興味をもったり、食べたことのない食べ物を食べたりする経験ができた。



収穫したスイカ

4 課題

- ・各学年の取組の内容や、学んだことの発信の仕方の工夫。
- ・教科等横断的な学習になるよう、教師の指導力の向上。



たくあん漬け大根干し



はりはり大根干し



たくあん漬けづくり

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	笠木小学校		学年	第5・6学年（10名）					
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさを守ろう					
単元名	大好きにいがた「笠木っ子米プロジェクト」（50時間）								
ねらい	ふるさと笠木の米作りの課題について、人々の思いや努力を理解し、課題を解決するために情報を収集したり、整理したりしながら、自分たちにできることは何か考え、主体的に地域に働きかけることができる。								
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識）地域の人々へインタビューし、笠木地区の課題や、地域の人々等の思いを理解している。 ・（自在に活用する技能）自分たちの探究から、次の課題を見つけたり、解決策を見付けたりする学習のスパイラルを重ねることで、面白さを感じながら探究学習をしている。 ・（探究的な学習のよさの理解）米作りの課題について調べたり、聞いたりする活動に前向きに取り組んでいる。 【思・判・表】・（課題の設定）地域の人々等の思いをふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもって追究している。 ・（情報の収集）目的に応じて手段を選択し情報を収集したり、必要な情報を選んだりしている。 ・（整理・分析）視点を明確にして問題状況における事実関係と、整理した情報を関連付けたり、多面的に考察したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。 ・（まとめ・表現）相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめ、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）地域や対象に対する思いの変容に気付いたり、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重したりしながら探究活動に取り組んでいる。 ・（主体性・協働性）自ら疑問をもって課題解決のために探究を行ったり、他者と協働して探究活動に取り組んだりしている。 ・（将来展望・社会参画）自他の良さを生かしながら、笠木地区の農業をよりよくする方法を考え、進んで地域に働きかけようとしている。								
4 月		5 月		6 月		7 月	8 月	9 月	
<笠木地域の米作りを知る①> ・笠木地区で米作りに関わっている方にインタビューし、米作りの課題について知る。 ・すじまき、田植えをする。 ・笠木地区の課題が人手不足・後継者不足であることを知る。 (8時間)		<全国的な米作りの現状を知る> ・笠木の課題は全国的な課題であることに気付く。 ・スマート農業を見学する。（新潟クボタに依頼） ・圃場整備を行っている田の見学。 ・米の消費量が減っていることを知る。（社会科の学習） (5時間)		<笠木地域の取組、地域の方の思いを知る> ・笠木の米農家の方と地域振興局の方に、課題解決のために取り組んでいることについて話を聞く。 ・笠木の米作りの未来についての考えを聞く。 ・分かったことを話し合ってみる。 (5時間)		<笠木地域の米作りを知る②> ・稲刈りを行う。 ・米の精米作業を見学、体験。 ・JAの低温貯蔵庫見学。 ・作った米を食べる。 (6時間)			
専門家の情報提供		専門家の情報提供		専門家講師の派遣		交通費の助成			
						タクシー代 6,540 円			
10 月		11 月		12 月		1 月		2 月	3 月
<笠木地域の米作りの課題を解決するために、できることを考える> ・笠木の米作りの課題である「人手不足、後継者不足、消費量減」に対して自分たちにできることを考え、笠木の米作りを未来につなげるプロジェクトを立案する。 ・地域の方に自分たちのプロジェクトを提案し、自分たちの考えたことをよりよく伝えるために相談したり、協力してもらったりする。 ・プロジェクトの改善・修正を行う。 ・お弁当プロジェクトに笠木っ子米を提供。 (12時間)		<各プロジェクトごとに活動を行う> ・食べ残し0プロジェクト→笠木小・小瀬小で食べ残し0週間 ・ごはんの日プロジェクト→啓発チラシを保護者、地域へ配付。JA店舗に置く。 ・給食お米プロジェクト→給食週間で米粉料理を出してもらい、そのレシピを保護者、地域へ配付。JA店舗に置く。 ・いっぺこ〜とでの弁当販売時に米、米粉とチラシを配付してPR。（10時間）		<まとめ> ・これまでの学習を振り返り、笠木の米作りの課題について、自分の考えを書く。 ・地域の米農家の方に報告する。 (4時間)					
専門家講師の派遣		学習成果の発信		交通費の助成					
報償費 JA 職員 5,000 円 笠木の米農家3名 5,000 円×3＝15,000 円		タクシー代 12,300 円（いっぺこ〜と） タクシー代 3,060 円（小瀬小）		報償費 笠木の米農家3名 5,000 円×3＝15,000 円					



SDGsで3つの視点を

未来も

まわりも

みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 笠木小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・毎年米に関わる総合的な学習を行っていたが、今年度は、地域とのつながりを児童が実感できる学習になるよう改善を図った。そこで、学習のスタートを笠木の地域の方へインタビューし、米作りの課題について調査することとする。
- ・また、児童には活動する際、「笠木の米農家のためになっているか」に立ち返らせ、活動の目的が明確になるよう留意する。
- ・笠木の米作りの課題が「人手不足、後継者不足、米の消費量減」であることに気付いた児童が、今年度笠木地区で始まった「圃場整備」について、笠木の米農家の方から、笠木の米作りを持続させるために圃場整備を行ったこと、笠木の米作りの未来のために若い世代に協力してほしい、という話をしていただく。
- ・未来のために努力している地域の方の思いを聞いた上で、笠木の米作りの未来のために、自分たちにできることはないかを考える。
- ・課題である米の消費量減を解決するため、地域の方や JA の方にプロジェクトへの協力をお願いし、自分たちで考えた活動を行う。
- ・笠木の米農家の方のために、プロジェクトごとに活動する。
- ・お弁当プロジェクトに米を提供し、弁当販売時にチラシや米、米粉を配布させてもらうようお願いし、いっぺこ〜とで PR をする。
- ・一年間を振り返り、笠木の米農家の方へ報告する。

2 主な協力団体・協力者等

- | | | |
|----------|---------|---------|
| ・笠木の米農家 | 小出 敏一 様 | 田中 良喜 様 |
| | 田中 猛 様 | |
| ・地域振興局 | 佐藤 俊治 様 | |
| ・JA | 笹川真紀子 様 | 佐々木菜摘 様 |
| | 山本 碧 様 | いっぺこ〜と様 |
| ・新潟大学 教授 | 澤邊 潤 様 | |



チラシに載せるため、米農家の方へインタビューを行った

3 成果

- ・地域の方にインタビューすることで、笠木の米農家の課題に気付くことができた。
- ・笠木の米農家の方から、持続可能な米作りをしていくために圃場整備を決意したという話を聞き、笠木の米農家の方が未来のために努力していることを知り、自分たちも米農家の方の力になりたい、という思いをもつことができた。
- ・米作りの課題の解決策として、「ごはんの日」、「給食米粉」「食べ残し0」の3つのプロジェクトを立ち上げ、米農家3名の方の協力のもと、PR 活動を行った。
- ・学校内、中学校区の小瀬小、近隣保育園、JA 3 店舗、いっぺこ〜とでチラシを配布したり、一緒に活動したりすることができた。
- ・いっぺこ〜とでの PR 後、米農家3名の方に、年間の活動報告を行った。また、今後期待することもお話していただくことで、地域のために活動する意義を感じることができた。
- ・米農家の方々へ成果を報告し、農家の方の力になる、という目標を達成できたことを自覚することができた。1年間、地域の方とたくさん関わってきたからこそ、「役に立ったよ、ありがとう」と言われ、喜びを見出していた。



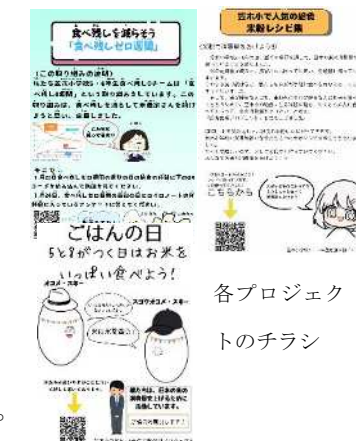
小瀬小へ行って、食べ残し0週間への協力をお願いした



笠木の米農家の方へ成果発表とお礼

4 課題

- ・笠木の米作りの課題を理解し、米農家の方の力になりたいという意識を持たせることができた。しかし、活動をする中で、目的が「消費量を上げることにすりかわってしまい、自分たちの活動の成果が表れにくいという面があった。来年度以降は、より笠木地域の特色を意識した活動を工夫し、地域の方々とのつながりを大切にする子どもの育成を図る。



各プロジェクトのチラシ

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	中之口東小学校		学年	第3学年（19名）	
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	3 すべての人に健康と幸福を 8 働きがいも経済成長も	
単元名	おいしさいっぱい 中之口 （40 時間）				
ねらい	中之口地域で昔から盛んな桃やぶどうの栽培について、一年を通して栽培に関わったり、他地域や専門機関の果樹栽培の工夫や課題解決の方法を学んだりすることを通して、「おいしさいっぱいの中の口」の桃やぶどうを自分たちの宝として捉え、未来につなぐために自分たちにできることを考え、行動しようすることができる。				
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識） 地域には、桃やぶどう等、様々な農業があることを知るとともに、地域の特徴を生かした果樹栽培のよさや、農家の継続・発展への取組を理解している。 ・（自在に活用する技能） 農家や関係機関、学校等へのインタビューによる調査を、相手や場面に応じた適切さで実施している。 ・（探究的な学習のよさの理解） 地域の農業に対する自らの認識の高まりは、他地域や関係機関など、多面的に探究してきたことの成果であることに気付いている。 【思・判・表】・（課題の設定） 地域の果樹栽培について関心を持ち、調査や体験を通して生まれた疑問を話し合い、課題を明確にする。その解決に向けた計画書の作成に当たり、何をするのか、何のためにするのかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。 ・（情報の収集） 調査や体験、栽培農家の方からお話を聞きながら、問題解決に必要とする情報に応じて質問の内容や方法を考え、尋ねている。 ・（整理・分析） 地域の果樹栽培のよさを伝えたり、農業の継続・発展への取組に参画したりする中で、「実現可能な取組か」「意味があるのか」「有効な内容か」等の視点から、取組の根拠を見出している。 ・（まとめ・表現） 活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かして学びについて発表したり、冊子にまとめたりして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解） 他地域の栽培農家や関係機関からお話を聞き、異なる方法や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見いだそうとしている。 ・（主体性・協働性） 地域または他地域の栽培農家や関係機関等からお話を聞き、自分たちができることを計画、実施するに当たって、伝える相手を意識して対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。 ・（将来展望・社会参画） 計画、実施しようとする内容を成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。				
4 月		5 月		6 月	
7 月		8 月		9 月	
・果樹園が学校の東・南側に多いことなど、地域の土地活用の様子を地図に表し、その理由を考える。 ・地域の桃やぶどう農家を訪問し、栽培や働く喜びや苦労、思い、果樹栽培の課題等を聞く。 ・桃栽培について、実の成長を観察したり、摘粒、袋かきを体験したりすることでおいしい桃作りの工夫を知る。 ・桃栽培について、実の成長を観察したり、収穫や出荷作業を体験したりする。（みんなも） ・ぶどう栽培について、実の成長を観察したり、摘粒、袋かきを体験したりする。（未来も） ・ぶどう栽培について、実の成長を観察したり、収穫体験をしたりする。 ・桃やぶどうが消費者に届くまでの順序を調べたり、加工品を扱う方から話を聞いたりして、地域の果樹の魅力伝える方法を考える。 ・中之口川（または富農川）に関わり、他の果樹園（洋梨）の取組について話を伺い、栽培者の共通した思いや課題を知る。 ・桃またはぶどう栽培を学ぶ他学校と交流を図り、栽培に関わる取組を紹介する中で、自分たちの地域のよさや工夫などを知る。 専門講師の派遣 交通費の支援					
報償費 他の果樹農家 5,000 円 使用料及び賃賃料 バス代 11,560 円（× 1 学級）					
10 月		11 月		12 月	
1 月		2 月		3 月	
・加工品について試食品の配布やアンケート調査を行い、中ノ口の魅力を地域等にアピールする。 ・桃やぶどうに関わり、お世話になった方へお礼状を作成する。 ・実践のふり返しを行い、学習発表会で学びについて伝える。 中之口ノート等で、1年間の学びをまとめ、地域へ発信する。 ・持続可能な農業について、農業試験場などの専門機関から新潟市の農業が抱える課題や解決策等をお聞きし、自分たちが参画できる持続可能な農業について考える。 ・持続可能な農業について、提案書を作成し、地域等へ発表する。 交通費の支援 使用料及び賃賃料 バス代 13,320 円（× 1 学級）					



SDGsで3つの視点を

□ : 未来も
 □ : まわりも
 □ : みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 中之口東小学校

1 本単元作成のポイント、留意点

中之口東小学校の3年生は、総合的な学習の時間に「おいしさ いっぱい 中之口」を題材に学習を進めている。従来は、桃やぶどうの栽培を体験しながら地域の特産品を学んできた。今回は、SDGsの視点（8働きがいも経済成長も：持続可能な農業 13気候変動に具体的な対策を：気候変動の課題と現在の取組）を加えて、以下のことに留意して活動した。

① 桃やぶどうの果樹栽培に携わる人の思いや工夫を知り、農業に関わる児童の気持ちを醸成する

児童にとって、桃やぶどうの果樹栽培は、校歌で歌われる身近な農業である一方で、栽培の様子や工夫、生産者の思いについては知らない児童が多い。持続可能な農業を目指す上で、農業の現状や生産者の思いを知ることがSDGsの取組への重要性や農業の課題が見えるものと考えた。

② 持続可能な農業を考えるため、近隣や他地域から学ぶ

近隣の月潟では、昔から和梨の栽培が盛んである。農業の現状や生産者の思いなど、自分たちの地域での学びと比較し、農業の抱える課題を明確にした。また、他校の総合（ワイン用のぶどう栽培）の取組について学びを共有しながら、生産への取組、果樹の加工といった新たな視点を獲得することができた。

③ 農業大学校との連携を通して、持続可能な農業や気候変動への取組を学ぶ

農業従事者の高齢化や人手不足、気候変動の影響による高温障害等が深刻なことを学んだ。課題解決に向けて今の取組を農業大学校の専門家から学び、SDGsの取組をみんなで推進していく大切さについて考えた。

④ 生産者の思いや取組を詳しく学び、自分たちのできることを考える

農業が抱える大きな課題を知り、持続可能な農業へのSDGsの取組の重要性や、自分たちにできることを考えた。また、桃やぶどう栽培の今の取組も学んだ。この学びを学習発表会で全校に伝えた。

2 主な協力団体・協力者等

- ・桃、ぶどう、梨園の指導者様 【桃、ぶどう栽培や体験、梨栽培に関わる講話】
- ・新潟県農業大学校様 【果樹栽培の課題と解決に向けた取組】
- ・新潟市立越前小学校6年生様 【ぶどう栽培（ワイン用）の交流学习】

3 成果

本単元を通して、児童は、中之口の特産である果樹栽培が直面している「高齢化や人手不足の問題」、「自然環境の悪化」を、一人一人が自分事として捉え、改善のための取組をみんなで進める大切さを理解し、桃やぶどう栽培をしっかりと未来につなげたいという心情を一層高めた。

① 児童は、桃やぶどう栽培を体験しながら、花粉付けや摘粒、袋がけなど、大変な作業が多い中で、愛情を込めて日々の取り組んでいることを知り、地域の誇りとして自分たちも協力したいとの心情を高めた。

② 他地域でも後継者不足が深刻で、今も果樹園が減少していることや、高温障害による果樹への影響も年々増していることを知った。児童は農業全体に広げて課題や解決の仕方等を主体的に調べたり、他校との学习交流を通して、自分たちのできることを話し合ったりしながら、自分事として捉えるようになっていった。

③ 専門家から話を聞く中で、気候変動による桃やぶどうへの影響を学んだ。また、果樹栽培の人材育成にも力を注いでいるなども分かった。自分たちの地域の宝を守りたいという思いを高めていった。

④ 果樹栽培に携わる方の高い志や、持続可能な農業に対する取組への理解を深め、学習発表会で全校にその思いを伝えることができた。



果樹栽培を体験



果樹栽培の課題と取組



専門的な視点からの解決策

4 課題

- ・春からのおよそ半年間で、様々な体験を通して学習活動を進めてきた。総合的な学習の時間だけでの運用は厳しく、学習活動全体で途中修正を加えながらより深い学びにできるよう苦心した。
- ・SDGs事業担当の方や、地域教育コーディネーターから多くの支援を受けながら児童の関心やSDGsに関わる取組への心情を高めることができたが、計画と適時な活動の実現にやや時間差が生じてしまった。

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	南浜中学校		学年	第1学年（30名）	
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任	
単元名	南浜サツマイモプロジェクト（SP）（40時間）				
ねらい	農業の6次産業について、サツマイモの栽培や考えた商品を企業に売り込む活動を通して、「相手も自分たちも喜ぶ」商品や販売の工夫を考え、課題を主体的に解決できる				
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識）「相手も自分たちも喜ぶ」販売をするには、人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であると理解している ・（自在に活用する技能）開発した商品を企業にコラボしていただくため、相手や場面に応じてわかりやすくプレゼンすることができる ・（探究的な学習のよさの理解）農業の6次産業化体験で、探求し続けることにより、商品のブランド化が地域の活性化につながるなど、これからの社会にも深く関わっていることに気付いている 【思・判・表】・（課題の設定）開発した商品を企業にコラボしていただくための提案書作成や、商品売るための工夫を、見通しをもって計画している ・（情報の収集）課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して収集している ・（整理・分析）収集した情報や、アドバイスいただいたことを基に、商品や販売方法を決定する ・（まとめ・表現）商品開発の過程や販売方法を整理分析し、「相手も自分たちも喜ぶ」販売ができたか振り返る 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）課題解決に向け、自分の特徴やよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている ・（主体性・協働性）自他の意見や考えのよさを生かしながら課題解決に向け、協働して学び合おうとしている ・（将来展望・社会参画）農業の6次産業体験を通して、これからの社会を視野に入れ、自分にできることを見つけようとしている				
4月		5月		6月	
・アグリパーク宿泊研修で、農業(耕起・畝作り)体験を行う。(貸し切りバス利用) ・サツマイモについて調べ学習を行う。 ・6次産業化について図書・動画を使って調べ学習を行う。 (8時間)		・どんな種類のサツマイモを植えるか決定する。 ・地域の方から畑を借りて、作り方を教わりながら畝作りを行う。 ・地域の方に教えていただきながら、苗植えを行う。 ・サツマイモの栄養価・商品開発について講話を頂く。(講師依頼) (5時間)		・「売る人も作る人も買う人も喜ぶ」販売をするにはどうしたらよいか考え、商品開発を行う。 ・商品開発プランの中間発表を行い、アドバイスをいただく。(講師依頼) ・サツマイモを使った商品を、コラボしていただくための提案書を作成する。 (8時間)	
・サツマイモを使った商品を企業にプレゼン（売り込み）し、コラボしていただく企業を決定する。 (4時間)					
交通費の支援 宿泊費の支援 専門家講師の派遣					
使用料及び賃貸料 アグリパーク 報酬費 バス代 60,000円 宿泊費 2350円(34人) 6次産業化専門家 14,600円 (1学級・往復) 合計 79,900円					
8月		9月		10月	
・松風祭（文化祭）で商品売るための工夫を考える。 ・宣伝計画、チラシ、看板、販売の準備を行う。 (4時間)		・地域の方に教えていただきながら、サツマイモを収穫する。 ・収穫したサツマイモを分類する。 ・松風祭（文化祭）で商品売るための準備をする。 ・宣伝やプレゼンテーションの準備をする。 (6時間)		・心を込めて、松風祭（文化祭）でコラボ商品焼き芋を販売する。 ・振り返りを行う。 (5時間)	
学習成果の発信 地域の方へのお礼					
(畑借用料 10,000円 学校より) (焼き芋調理講師料 5,000円×2名 他の支援活用)					



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 南浜中学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

～「相手も自分も喜ぶ販売」を、文化祭で行うために～

- ・6次産業を行っている人を講師に招き、6次産業の取組について講話をいただき、これから行う活動のイメージを広げた。
- ・地域の方から畑をお借りして、サツマイモの栽培から収穫まで、方法を教わりながら「島見産サツマイモ」を育てた。
- ・サツマイモの栄養価について、講師を招き講話していただいた。講話を参考にし、SDGsを考慮した商品開発を行い、企業にプレゼンし、商品を決めた。
- ・3つの活動チームに分かれ、自分の特性を活かし最後まで協力して活動し、働きがいと得られるよう配慮した。
- ・北区文化会館館長さんから「アナウンス講習会」をしていただき、当日の販売の仕方や声の出し方について考えた。
- ・地域の方にチラシを配り、活動を発信し、地域で学んだことを地域に還元する活動にした。

2 主な協力団体・協力者等

- ・新潟市アグリパーク 様
- ・株式会社 農プロデュース リッツ 代表取締役 新谷 梨恵子 様
- ・玉井 孝一 様 (畑の所有者、サツマイモ栽培師匠、焼き芋調理講師)
- ・鈴木 慎一 様 (焼き芋調理講師)
- ・新潟医療福祉大学 健康科学部 片山 直幸 様
- ・新潟医療福祉大学 健康科学部 稲葉 洋美 様
- ・ライフデザイン 代表取締役 雪井 幸太郎 様
- ・はまばん 店長 田中 優妃 様
- ・北区文化会館 館長 高坂 元己 様



苗植え

3 成果（生徒の振り返り）

- ・サツマイモを育てる上で、作物を作る大切さを実感できた。
 - ・商品の材料を作るところから売るところまで自分たちですること、商品販売の大変さを理解できた。
 - ・一つの商品を作るのには、こんなにも時間がかかり大変なのだと実感した。
 - ・商品を開発するとき、作ってくれる人、買ってくれる人の気持ちを考えることが大切だとわかった。
- <例えば…>
- ・良い商品、手間をかけずに作る。
 - ・小さい子からお年寄りの方まで幅広い年代の方に見てもらえるよう、文字の大きさや看板を貼る位置を工夫する。
 - ・接客の時、相手が聞きやすいスピードで話をする。
 - ・地域の方々の協力がなかったらできなかった。
 - ・班の人と話し合い、わからないことを教え合い、みんなが協力して作業してすごく助かったし楽しかった。
 - ・自分で考えて行動すること、協力することの大切さを学んだ。



収穫



企業にプレゼン



商品販売(プリン)



商品販売(焼き芋)

4 課題

- ・活動を振り返る時間が不十分だった。
- SGDsの視点からの振り返りをする時間を確保する。
- ・1年生での実施だったが、2、3年生で行う総合学習(地域の課題を見つけ、地域活性化活動を行う)につながるような「気づき」がたくさんある活動にしていきたい。



販売商品のチラシ

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	小合中学校		学年	第1学年（20名）					
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさを守ろう					
単元名	地域の農業、特産物を学ぼう（35時間）								
ねらい	植物、野菜、花のよりよい栽培方法を学び、収穫した作物を使ってどのような地域貢献ができるか考え、活動する。								
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識）地域の農業、特産物について知り、それにあった土づくりや畑作りを学ぶ。 ・（自在に活用する技能）畑を作ってそれぞれ農産物にあった栽培方法を調べ、栽培活動を行うことができる。 ・（探究的な学習のよさの理解）専門家や地域の人が行っている農業について知り、自分たちができそうなことを考え実践してみる。 【思・判・表】・（課題の設定）地域の農業や特産物に関心を持ち、それらを使ってできそうな地域貢献を考える。 ・（情報の収集）農家さんや専門家から栽培方法を学び、それを自分たちの活動に生かすことができる。 ・（整理・分析）観察記録からよりよい栽培方法を考える。 ・（まとめ・表現）聞き手に効果的に伝えるための表現方法を工夫して発表する。 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）農家や専門家の方から学び、自分のできることを考えようとしている。 ・（主体性・協働性）仲間と協力して栽培活動に取り組み、進んで自分の役割を果たそうとしている。 ・（将来展望・社会参画）地域の農業、特産物に関心を持ち、それを使って地域に貢献する方法を考え、実践しようとしている。								
4月		5月		6月		7月	8月	9月	
・地域の農業、特産物について学ぶ。 ・畑づくり、栽培、観察に取り組む。 JA職員を講師に招く。栽培するものを決め、畑づくりをする。 (10時間)						・地域の特産物を使った商品、製品開発に力を入れている人から学ぶ。1回 スマート農業や薬科大学のもち麦プロジェクトなど、訪問かオンラインを利用し、講師に学ぶ。1回の訪問。専門家に情報提供を依頼。 (10時間)			
専門家の情報提供		専門家講師の派遣		交通費の支援 専門家講師の派遣					
報償費 JA職員 無償				使用料及び賃貸料 バス代 30,000円（30000円×1学級） 報償費 専門家・講師 14,600円					
10月		11月		12月		1月		2月	3月
・栽培したものを使って、どんな料理や商品を作ることができそうか考える。 専門家講師を依頼。（オンライン） (5時間)		・実際に栽培したものを使って、料理や商品を作る。 授業参観とし、保護者と一緒に料理をする。 お世話になった方に振る舞う。 (5時間)				・今後、特産物を使ってできそうなことを考え、発表会を行い、発信する。 次年度の特産物の栽培、販売の計画を立てる。 畑を整備する。 (5時間)			
専門家講師の派遣									
報償費 専門家 無償									



SDGsで3つの視点を

未来も まわりも みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 小合中学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・農業の専門家である JA 新潟かがやきの職員を講師に迎え講演をしていただき、地域の農業について学び、何を栽培するか考えた。
- ・6次産業を行っている新谷さんから、栽培から販売までの方法を講演していただいた。
- ・スマート農業を行っているきゅうり農家さんのハウスを訪問し、栽培過程で感じた困り事を解決する方法を質問した。農家さんの苦労も感じる事ができた。
- ・収穫したさつまいもで料理を作った。レシピや料理の仕方についてシェフパティシエ専門学校の先生にアドバイスをいただき、実際に調理し、お世話になった方を招待して振る舞い、料理に対する関心が高まった。
- ・今年度の活動について振り返り、次年度入学してくる新入生にプレゼンを行った。
- ・次年度の農産物の販売活動に向け、学校の畑の条件や気候、時期などを考慮しつつ、栽培するものや販売の仕方について考えた。

2 主な協力団体・協力者等

- ・小宮山裕久様（JA 新潟かがやき）
- ・新谷梨恵子様（農プロデュースリッツ代表取締役、さつまいも農 cafe きらら）
- ・原 寛 様（南区きゅうり農家）
- ・シェフパティシエ専門学校様



新谷様の講演



レシピについてオンラインで相談

3 成果

- ・栽培から商品開発、販売まで行うことの大変さ、人とのつながりの大切さを知ることができた。
- ・レシピを考えるとときのアイディアの幅が広がった。
- ・畑づくりから栽培まですることで、農業の大変さを感じ、うまくできなかったことを改善したいと考えた。
- ・来年度はおいしい野菜を作り、地域の人に販売して食べてもらいたいと考えている。
- ・自分たちが栽培したさつまいもを、お世話になった人たちにおいしく食べてもらいたいと調理計画を立てて、実際に調理することができた。
- ・専門学校の先生に自分たちが考えたレシピをプレゼンし、アドバイスをもらうことで、レシピを見直し調理できた。
- ・温度管理や水やりなど、それぞれの野菜に合った管理の仕方があることを学び、来年は何を栽培したらよさそうか考えることができた。



きゅうり農家訪問



地域の農業について学ぶ



さつまいも収穫

4 課題

- ・栽培の知識を持った専門家の方に定期的に指導してもらえると、生徒の栽培することに対する意欲がもっと高まるが、時間や費用面で不安がある。
- ・様々の分野の専門家の方がいて、生徒の活動に協力してくださることがわかった。それを継続していくためには、教員同士での情報交換や引継ぎを確実にし、続けていく必要がある。
- ・栽培した野菜を地域で販売する方法を、地域の方と打ち合わせを検討していく。



収穫祭で作ったさつまいも料理

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	小新中学校	学年	第2学年（94名）
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	8働きがいも経済成長も
単元名	前期：小新ハローワーク（私たちが、よりよく生きるために取り組んでいきたい仕事） 後期：小新ジャーニー（新潟の過去・現在を知り、未来を語り合おう）		
ねらい	職業（キャリア）や地域（新潟）について、ロボットやテクノロジーの視点を加えながら探究することで未来を見通し、持続可能な生き方を考える。		
評価規準	【知識・技能】探究的な学習の過程において、職業や地域に関する課題解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。 【思・判・表】職業や地域について、実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いの良さを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。		

第1学年（これまでの学習）「未来も（経済）」「まわりも（環境）」「みんなも（社会）」											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
GIGA 開き	小新レスキュー（防災）					小新ウェルフェア（福祉）					小新ハローワーク（職業）
オリエンテーション	課題設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・発表	振り返り	課題設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・発表	振り返り	課題設定
・iPad のマナーとモラルに基づく使用方法について確認する。	・総合的な学習の時間で身に付けたい力ってなんだろう。 ・日常生活で地震が発生したら、どのように避難したらいいだろう。	・災害時、通学路や自宅周辺には、どんな危険が潜んでいるだろう。 ・防災士による授業①～④	・防災士による授業⑤～⑥ ・長期休業中の個人探究について、説明。	・個人探究「防災について、大切な家族に伝えたいこと」 ・防災と教科を関連付けて探究し、その成果を家族の前で発表する。	・夏休みの探究成果を修正し、提出。 ・はがき新聞による探究の価値づけ。 ・自己成長力アンケート	・後期「小新ウェルフェア」とは… ・道徳「私が働く理由」で、総合学習と教科横断。	・道徳「エルマおばあさんからの最後の贈りもの」 ・講演会「先端技術と福祉」 ・講演会「済生会新潟病院」	・講演会「地域包括支援センター」 ・長期休業中の個人探究について説明。	・個人探究「福祉について、大切な家族に伝えたいこと」 ・福祉と教科を関連付けて探究し、その成果を家族や友達の前で発表する。	・はがき新聞による探究の価値づけ。振り返り。 ・講演会「介護に携わる仕事」 ・福祉から、職業の学習へと移行。 ・自己成長力アンケート	・10年後に、あなたはどんな職業に就き、どんな生活をしているか、想像してみよう。 ・長期休業中の個人探究について説明。

第2学年（今年度の学習）「未来も（経済）」「まわりも（環境）」「みんなも（社会）」											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
GIGA 開き	小新ハローワーク（職業）					小新ジャーニー（地域）					
オリエンテーション	情報の収集	情報の収集	整理・分析	まとめ・発表	振り返り/課題設定	課題設定	情報の収集	整理・分析	まとめ	発表	振り返り
・iPad のマナーとモラルに基づく使用方法について確認する。	・17日：生き方講演会「先端技術を活用した働き方（小柳建設）」※新しい建設業の姿。	・地元経営者による講演会 ・職場体験1日目 ・水耕栽培	・職場体験2日目 ・職場体験3日目 ・長期休業中の個人探究について説明。 ・水耕栽培	・個人探究「就職に先駆け、身に付けておくべき知識とは!？」	・夏休みの探究成果を修正し、提出。 ・はがき新聞による探究の価値づけ。 ・自己成長力アンケート	【地域学習】 ・道徳授業をききかたに、新潟市の特徴や良さについて、考える。 ・弁当作り	講演会 ・新潟を支える農業。 ・農業とテクノロジー。 ・調理実習	・4日に修学旅行（三条・燕・長岡）。農業工場を見学する。 ・未来の新潟「食・農」物語の執筆。	・家族に披露した探究成果を友達にも伝えよう。 ・新潟のこれからを考えよう！	・「Koshin 若者会議 2025」～新潟の未来を語り合おう～ ・「小新ポジウム」で情報発信！ ・自己成長力アンケート	・食と農のいきいき SDGs 学習で学んだことを「はがき新聞」にまとめよう。

植物工場や専門家の情報提供

専門家講師の派遣

学習成果の発信・専門家講師の派遣

【補足】「持続可能な社会の実現に向けて、テクノロジーをどのように活用できるか」というテーマで、学習に関連付け、ストーリー性を持たせる。冬休みに行う、未来の新潟「食・農」物語の執筆を目指して、SDGs 学習や講演会、工場見学を実施する。生徒には学習のオリエンテーションで、12月の物語の執筆や、その後の若者会議・シンポジウムの計画を事前に話し、見通しを持たせる。生徒の関心に応じた農作物を選択させ、新潟市の未来像を想像させ、その成果を持ち寄って会議を開催するなどして、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

報償費
有限会社 米ハ
10,000円

報償費
株式会社 総合フードサービス
5,000円

報償費
西区長・食と花の推進課
無償



SDGsで3つの視点を

未来も まわりも みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 小新中学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・従来の職場訪問に SDGs 学習の視点を追加する。

職業講話や職場体験では「働くことの意味」を探るとともに、各職場で行われている SDGs に関連する取組についても学ぶ。訪問先での取組内容を聞き取り、その情報を生徒同士で共有することで SDGs への理解を深め、社会貢献の意識を高めることを目指す。

- ・食と農を総合的な学習の時間のみならず教科横断的に学ぶ。

技術科の水耕栽培実習、家庭科の調理実習、美術科のポスター制作（フードロス削減）、ランチ給食の場面を通じて、食や農に関する理解を深める。このような取組によって、既存の学習の価値や意味を再認識する。

- ・個別最適な学びの充実を図る。

生徒の興味関心に基づいて取り上げる農作物を設定させ、その農作物に関する課題と解決策を考えさせる。その提案は生成 AI による個別の助言も参考にして練り上げ、『未来の新潟「食・農」物語』としてまとめる。

- ・様々な人との協働的な学びの充実を図る。

講演会を2回実施し、修学旅行では農業関連施設の見学を行う。創作した物語は保護者の前でも発表する。課題解決のアイデアを持ち寄り、小新若者会議を開催する。食と花の推進課とシンポジウムを共同開催し、行政の方からも助言をもらう。

昨年度も当校の2学年では、前期に職業を、後期に地域を探究してきた。本単元の実施に関わり、小新中学校における総合的な学習の時間の系統性を維持すること、これまで培ってきた実践の蓄積を活用し、関連する内容を扱う他教科と横断的に学習効果を高めることに留意する。

2 主な協力団体・協力者等

有限会社米八様 株式会社総合フードサービス様
新潟市西区長様
新潟市農林水産部食と花の推進課



講演：有限会社米八様

3 成果

- ・株式会社総合フードサービス様より講師をお招きし、講演をしていただいた。同社は当校のスクールランチを提供する業者であり、食材の産地やランチの残食状況など、生徒たちに直接関わる内容についてお話しいただいた。
- ・有限会社米八様から講師をお招きし、南区で実施されているスマート農業について説明していただいた。写真や動画を活用し、スマート農業のメリットとデメリットを分かりやすく解説していただいた。
- ・修学旅行では水耕栽培や農業機械など、先端技術を活用した生産システムや製造所を見学し、生産者からも直接お話を聞くことができた。
- ・冬休みに執筆した『未来の新潟「食・農」物語』では、興味関心のある農作物について課題を見つけ、その解決策を物語仕立てで描いた。これをもとに若者会議を開催し小グループで物語の内容を共有し、それぞれの農作物について議論を深めながら図にまとめた。会議の内容はシンポジウムでも発表した。
- ・食と農のわくわくSDGs学習を振り返る活動としてシンポジウム形式の成果発表「小新ポジウム」を開催した。新潟市西区長様や新潟市農林水産部食と花の推進課職員をお招きして、中学校の取組を聞いていただくとともに、新潟市の取組についても講演いただいた。



講演：総合フードサービス様



小新若者会議



小新ポジウム

4 課題

- ・各活動が年間計画の中でどこに位置しているのかを意識し、学びのつながりを明確にする仕組みを取り入れる必要がある。各活動の前後で全体の流れを確認する場を設けることや、シンポジウムの振り返りの際に各活動のつながりを整理する。
- ・取組を次年度の担当者に引き継ぎ、学びの一貫性を意識した計画づくりを進めることで、より効果的な学習を継続する。

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	新潟青陵高等学校		学年	第1学年（25名）※バーチャル市役所「食と農」希望者	
教科等	総合的な探究の時間		関連 SDGs	2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 12 つくる責任 つかう責任	
単元名	青陵米プロジェクト（35 時間）				
ねらい	新潟県（市）の「食」と「農」の現状や課題について調査したり、米の生産から加工、販売までを体験したりすることを通して、課題を設定しその解決に取り組むことができる。				
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識）新潟県（市）の米に関する現状や課題を理解している。 ・（自在に活用する技能）食と農に関連する調査結果を、目的に応じた適切な手段で収集している。 ・（探究的な学習のよさの理解）探究学習の進め方を他教科の学習にも生かしている。 【思・判・表】・（課題の設定）新潟県（市）の米に関する課題への関心をもとに、問いを設定し、解決の見通しをもっている。 ・（情報の収集）課題解決に必要な有効な情報を、多様な手段を用いて収集している。 ・（整理・分析）課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し、その解釈に有用な論拠を示している。 ・（まとめ・表現）情報と論拠をもとに、課題の解決策を論理的に表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）自分の意思で課題に向き合い、課題解決に取り組む姿勢を振り返り、自己の在り方を考えようとしている。 ・（主体性・協働性）自分とは異なる見方や考え方を生かしながら建設的に議論しようとしている。 ・（将来展望・社会参画）自分には何ができるのかを考え、社会に貢献しようとしている。				
4 月		5 月		6 月	
7 月		8 月		9 月	
・探究学習オリエンテーション ・SEL（ Social and Emotional Learning ） ・SDGs 学習 ・[交通費①] 田植え：5月下旬（※有志）そら野テラス（フジタファームグループ）		・バーチャル市役所 （希望分野グループ分け） ・希望分野グループ決定 小グループ分け			
交通費補助①					
30,000 円					
10 月		11 月		12 月	
1 月		2 月		3 月	
【講師派遣①】新潟の農業の現状と課題の把握 （新潟市農林水産部食と花の推進課：目黒勝） 【講師派遣②】農家の現状と課題（たなか農園：田中流次） ・グループテーマ設定、調査、研究 ・10月下旬 青陵米を販売（そら野テラスと共同）：新潟青陵大学「青空祭」 （※有志）		・【講師派遣③】農業 ICT について（開志専門職大学：小野山博之） ・【講師派遣④】米粉の話、R10 プロジェクトについて （新潟県農林水産部食品・流通課販売戦略班：高橋尚子） ・調査、研究		・調査、研究、まとめ（スライド作成） ・グループ内発表、修正 ・学年探究発表会（新潟市への提言）	
専門家講師の派遣			専門家講師の派遣		
報償費 講師派遣① 無償			報償費 講師派遣③ 無償		
報償費 講師派遣② 10,000 円			報償費 講師派遣④ 無償		

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 新潟青陵高等学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・1年生の総合的な探究の時間は地域探究をおこなっている。1学期はSDGs学習、2学期以降はバーチャル市役所（政策シミュレーション型ワークショップ）に入り、現実の新潟市の課題を解決するための政策を考え、提言する探究学習をおこなった。
- ・研究テーマを考える上で、クラスを解体し、学年内グループ活動をおこなうことにした。本単元は「食と農」のグループでの学習活動である。
- ・新潟の農業の現状と課題の把握について、新潟市農林水産部食と花の推進課から講演をしていただいた。
- ・農業従事者としての現実的なお話を、たなか農園 田中様より講演していただいた。
- ・農業ロボットについて、開志専門職大学 小野山先生より講演していただいた。
- ・米粉の話、R10 プロジェクトへの取り組みについて、新潟県農林水産部 食品・流通課 販売戦略班 高橋様より講演していただいた。

2 主な協力団体・協力者等

- ・新潟県農林水産部 食品・流通課 販売戦略班：主査 高橋尚子 様
- ・開志専門職大学：小野山博之 様
- ・たなか農園：田中洸次 様
- ・新潟市農林水産部 食と花の推進課

3 成果

- ・出前講義を多く設定したことで、さまざまな面から新潟の農業について知ること、考えることができた。
- ・講演が終わった後も講師に質問する生徒もおり、主体的に学習に取り組んでいた。
- ・米をテーマに調査、研究を進めてきたが、田植えや米の販売に参加した生徒は一層、米への関心が高まっている姿が見られた。
- ・3月7日（金）学年探究発表会をおこなった。各グループの探究テーマは以下のとおりであり、課題解決のための提言をおこなった。

- ① 減少している農業就業者を増加させよう
- ② 農業者に対する支援金制度を作る
- ③ おいしいお米をたべるには？
- ④ ほかほか・つやつやお米の魅力を広げるためには
～米離れを再発させない～
- ⑤ 広げよう！～Beautiful rice field～



田植えの様子



農業の現状と課題の講演



探究学習発表会

4 課題

- ・年度途中からグループ探究学習が開始されたため、田植えや米販売をグループ全員で参加することができなかった。また稲刈りを予定していたが、天候の関係で稲刈りが中止になってしまった。グループ全員参加できるような日程調整等の工夫が必要であった。
- ・米粉の活用について学習を実施できなかったのが、次年度の検討課題としたい。

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習実施校 実施計画

学校名	新潟第一高等学校	学年	第1学年（343名）					
教科等	総合的な探究の時間	関連 SDGs	1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 8 働きがいも経済成長も 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう					
単元名	新潟の「食」と「農」を専門的に学び、考え、深めよう！（32時間）							
ねらい	新潟市の食材を使ったお弁当を多角的な面から考案する活動を通じて、新潟の「食」と「農」について、専門的な学問分野と関連付け、SDGsの観点からそれぞれの課題を発見し、その原因を深く考察・分析することで、自分なりの解決策を提示する。そのような活動を通じて、課題解決力及び社会の構成員として持続可能な社会を実現しようとする姿勢が身に付けられるようにする。							
評価規準	【知識・技能】・新潟市には世界に誇る「食」と「農」の強みがあり、社会の中で重要な位置を占めるものであると理解している。 ・「新潟市弁当」の考案を通して探究した様々な分野が、持続可能な社会を実現するための課題と結びついていることを理解している。 【思・判・表】・「新潟市弁当」の考案、新潟市の「食」「農」に関心を持ち、自分で課題を発見し、解決しようとしている。 ・課題解決に向けて必要な情報を、様々なメディアを駆使して収集し、蓄積している。 ・自らの課題に必要な情報を整理・選択し、活用している。 ・様々な場面に応じて、情報を要約し、伝わるように工夫して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】・課題の解決に向け、自分の強みを生かし、進んで探究活動に取り組もうとしている。 ・他者の意見にも耳を傾け、協働的に学び合おうとしている。 ・新潟市、新潟県、日本、世界といったそれぞれの社会との関わりの中で、自分ができることを見つけようとしている。							
4月		5月		6月	7月	8月	9月	
・ガイダンス（総合探究の意義・目的、1年間の目標と活動内容） ・外部講師を招聘して、講演を行い、アンケートを実施する。 ・クラスごとに「新潟市弁当」のテーマを考える ・「お弁当に入って欲しい新潟市の食材」について、個々で調べて、グループワークでまとめる。 ・各クラスで成果を発表する。 (5時間)		・クラス弁当を企画し、販売するうえでどんな班が必要か話し合う。 ・各クラスで班編制し、それぞれのテーマを探究する。 ・より深くテーマを探究し、「お弁当」に必要な情報を明確にする。 (5時間)					・各クラスごとに食と農に関連したテーマを設定し、バス遠足の計画を立てる。 ・前時のつづき（費用や目的地など設定）。 ・バス遠足直前の確認。 ・バス遠足（4）（工場見学や農家訪問等）。 (8時間)	
専門家の情報提供		専門家講師の派遣		交通費の助成				
				使用料及び賃賃料				
				バス代 240,000 円（30,000 円×8 学級）				
10月		11月		12月	1月	2月	3月	
・バス遠足の振り返り ・「表示」を考える → 価格・カロリー・使用しているもの・アレルギーなど（弁当の容器のデフォルトの提示） ・「新潟市弁当」クラス内で各班のスライド作り① ・「新潟市弁当」クラス内で各班のスライド作り② ・「新潟市弁当」クラス内でプレゼンの準備① ・「新潟市弁当」クラス内でプレゼンの準備② (6時間)				・「新潟市弁当」クラス内でプレゼンのリハーサル (3時間)	・「新潟市弁当コンクール」（3）学年発表会および優秀賞選出、専門家からの評価。 ・学年発表会を終えての振り返り。 ・探究活動アンケート実施。 (5時間)			
		専門家講師の派遣		学習成果の発信 交通費の助成				



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習実施校 実施報告書

学校名 新潟第一高等学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・新潟市にはどのような食材があり、どのような場所で、どのような人に育てられているのかを調べることで新潟市の「食」の強みについて興味をもたせる。
- ・新潟市の「食」を調べることで、その食を生産している農家さんや農業への関心を持たせるとともに新潟市の農業の課題や問題点を分析する。
- ・SDGsの観点から、新潟市の農業の現状やこれからの農業の発展に向けて考察させる。
- ・9月のバス遠足で、農業に携わる農園、JA、販売所などの現場を見学し、圃場の様子や働いている方からの話を聞いて、新潟市の食と農の理解を深める。
- ・「新潟市弁当」の考案を通して探究した様々な分野が、持続可能な社会を実現するための課題と結びついていることを理解させる。
- ・「新潟市弁当」の考案を通して、課題解決に必要な情報を収集し、整理・選択し、他の人に分かりやすく伝えるように工夫させる。

2 主な協力団体・協力者等

- ・新潟地区なし広域選果場 様
- ・白根グレープガーデン 様
- ・ピア万代 様
- ・タカツカ農園 様
- ・ピカリ産直市場 お富さん 様
- ・ただいまーと 様

3 成果

- ・9月に行ったバス遠足で、新潟市の食と農に関わる施設を見学できたことで、生産者の思いや農業のおもしろさや大変さを知ることができ、興味関心をもつきっかけとなった。

- ・9月のバス遠足で、新潟の食材を産直市場で直接購入し、調理する経験を通して、食材の種類、価格、販売方法などを見聞することができた。
- ・「新潟市お弁当」を考案するうえで、新潟市特産の食材への理解を深めることができた。
- ・「新潟市お弁当」を考案するうえで、スーパーやコンビニに通い、食材の価格、生産地、旬、パッケージデザインなどを学習することができた。



選果場の見学

- ・食材の栄養価について調べることで、食材の強みを理解することができた。
- ・「新潟市お弁当」を販売するところまで考えて、原価率、販売場所、ターゲット層などをリサーチして、消費者の購買意識の研究をすることができた。
- ・プレゼン発表会を行うに当たって、Keynoteを使い、聴講者に興味をもって聞いてもらうようにシートを工夫して作成することができるようになった。



圃場の見学



市場での質疑応答



校内プレゼン発表会

4 課題

- ・テーマを「新潟市弁当作り」に絞ったために、生徒が自由な課題設定をすることができなかった。
- ・もっと色々な分野の講師の先生方の講話を取り入れて、刺激を入れることができれば、もう少しメリハリをつけて活動ができたと思う。

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	日本文理高等学校			学年 1・2 学年			1 学年 (40 名) 2 学年(10 名)			
教科等	総合的な探究の時間			関連 SDGs			11 住み続けられるまちづくりを			
単元名	食・農に関する調査活動や体験活動を通して、食の大切さを知り、行動したり発信したりしよう（53時間）									
ねらい	体験的な学習を通して新潟市の食・農業に関する現状の把握と課題の発見を行い、課題解決のために協働的・主体的に取り組み、実行できるようにする。									
評価規準	【知識・技能】・(概念的な知識) 新潟市における食・農分野の持続的な発展には、多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々がいることを理解している。 ・(自在に活用する技能) 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで正確かつ安定的に実施している。 ・(探究的な学習のよさの理解) 新潟市の持続可能な環境の実現に関する理解は、食・農に関わる多様な人々や取組を探究してきたことの成果であることに気付いている。 【思・判・表】・(課題の設定) 各々のミッション解決に向けて仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案している。 ・(情報の収集) 課題の解決に必要な情報を目的に応じた手段を選択して収集し、類別して蓄積している。 ・(整理・分析) 新潟市の食・農の課題を整理し、事象を比較したり、因果関係を推測したりして分析している。 ・(まとめ・表現) 相手や目的、意図に応じて論理的に表現し、学習活動を振り返って、学習や生活に生かしている 【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解) 探究活動を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。 ・(主体性・協働性) 自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。 ・(将来展望・社会参画) 自己のあり方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、新潟市の持続可能な環境づくりに貢献している。									
(1 学年) 4 月		5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
・「探究学習とは？」 探究学習の概要説明を受け、探究学習のイメージを持つ（2時間）		・大学出前授業を受講し、自分の興味のある分野を探索。 ・出前授業の振り返りを行い、自身の探究活動方針を模索する。 ・現状の把握と課題の確認(17時間)			・大学学部出前授業を受け、出前授業の振り返りをする。その中で自分の興味・関心を見つけ、今後の探究活動の方針を練る ・適切な課題を設定する 例：米粉利用の未来と農業対策(11時間)		・調査活動 行動計画に基づき、課題解決のためのアクションを起こす 例：新潟市アグリパークで米粉と小麦粉を用いた蒸しパンをつくり、実体験から米粉の良さを考察する 例：米粉パンを販売している店舗に話をうかがい、米粉活用の可能性を探索。（19時間）		まとめと振り返り (2) (4時間)	
(2 学年) 4 月		5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
・事前学習(1) 個人の興味関心に合わせたテーマの選択 例) フードロス対策をとっている企業に話を伺うとしたらどの企業が適切か考える（2時間）		・7月の探究学習に向けた事前計画を立てる 現状の把握と課題の確認 訪問先とアポイントメントをとる 仮説の検証に必要な材料集めをする (3時間)		調査活動(1) ・食・農に関する課題解決のために必要な情報集め、整理をする。 訪問先がある場合はプロジェクト達成に向けた実践的な活動を行う（14時間）	まとめと振り返り (1) (5時間)	・課題解決に向けた行動を再設定・計画立案 ・外部に取材に行く場合は、アポイントメントをとる。（6時間） 例：新潟ミートプラント、すずまき農園、新潟市アグリパークへの訪問検討		・調査活動(2) 再構築した行動計画に基づき、課題解決のためのアクションを起こす 例)新潟郷土料理の良さを発信するため、地域の茶の間やアグリパークを訪問し、調理方法に関する知見を広め、比較する(19時間)		まとめと振り返り (2) (4時間)



SDGsで3つの視点を

未来も

まわりも

みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 日本文理高校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- 新潟市において先進的な取り組みをしている農家等を NPO 法人みらいず works や新潟市食と花の推進課に紹介してもらい、新潟市の食・農分野における課題解決に取り組む現場を訪問できるようにした。
- 新潟市を「住み続けられるまち」にするために、食・農に関する調査活動や体験活動を通して、食の大切さを知り、行動したり発信したりした。
- 1年生は昨年までの広いテーマ設定ではなく、「米粉」に絞った課題解決を考察した。
- 2年生の探究学習においては、既存の調べ学習から、地域の課題解決をテーマにした探究学習へシフトした。
- 昨年まではインターネット等での情報収集で終わってしまう生徒もいた。今年度は必ずフィールドワークを通じて現場の課題を知り、そこからアクションにつなげるようにした。
- 企業や地元農家との協働を意識した探究学習になるように努めた。

2 主な協力団体・協力者等

- NPO 法人みらいず works 様
- 新潟市アグリパーク 様
- すずまさ農園 様
- 新潟ミートプラント 様



アグリパークでののっぺ作り

3 成果

- 新潟市と「米」文化との密接な関係から、米粉利用の現状や可能性、SDGs との関連を調査し、仮説を立て検証するという探究学習のサイクルを経験することができた。
- 米粉を使用する際の利点と欠点を論理的に考察し、米粉普及の難しさを学んだ。
- 新潟市の農家を訪問し、市内の農家が土壌や環境にこだわり、より良い商品をより良い形で提供しようとしていることを学んだ。
- 屠畜場を訪問し、食べられるはずの部位が消費者の嗜好や市場の需要によって廃棄されることがある現状を知り、食品の価値を大切にすることを学んだ。
- のっぺのレシピ考案とのっぺ作り体験から、郷土料理の歴史や文化など新潟のならではの良さを発信し、食の地域性を学んだ。
- 校内での発表などを通して、自ら調べた内容を発信し、SDGs の考えを広めようとした。



アグリパークでの
米粉蒸しパン作り体験



米粉蒸しパン



米粉と小麦粉の比較

4 課題

- 「新潟の農業の現状」といった大きすぎるテーマを設定し、具体的な解決策まで深掘りできなかった。
- 調査や提案のみで終わり、実行に移せない生徒が多かった。
- 継続的に地域の課題を考える仕組みが必要だった。
- SDGs の目標に触れたものの、具体的にどのように貢献できるかを掘り下げられなかった。

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	にいがた製菓・調理専門学校えぷろん		学年	調理技術科2学年（22名）	
教科等	食育活動		関連 SDGs	2 飢餓をゼロに 12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさを守ろう	
単元名	食育活動（33時間）				
ねらい	・調理師という立場から農作業を通して食材作りの意義を知り素材を活かした料理ができるようになり、周りの人に喜んでもらえるようになる。 ・農業を身近なことから捉え、農家レストランや農業を就職の選択肢に加える。 ・米粉への加工を学び米粉を使った料理を考案し、米粉の消費拡大につなげる。				
評価規準	【知識・技能】SDGs 学習で学んだことを自分なりにまとめたり、日々の実践に生かそうとしたりしている。 【思・判・表】米粉のレシピについてアイデアを出したり、進んで米粉の調理実習に取り組んだりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】SDGs 学習で学んだことを自分なりにまとめたり、日々の実践に生かそうとしたりしている				
4月		5月		6月	
・米作りを学ぶ 三川の棚田の使用について 渡森 金子様 米作りの流れについて 渡森 渡辺社長様 (6時間)		・田植え実習 5月9日 三川の実習田で田植えを行う (6時間)		・草取り実習 複数回にわけて開催 7月17日 ・SDGs 学習について市役所 6月24日 ・有機農業について 宮尾農園様 7月10日 (6時間)	
7月		8月		9月	
				・稲刈り実習 9月18日 (6時間)	
専門家の情報提供		交通費の支援		専門家講師の派遣 交通費の支援	
		バス代 30,000 円		講師謝礼 10,000 円 バス代 29,920 円	
10月		11月		12月	
・脱穀実習 10月 米粉の消費拡大のためのメニュー考案 食花マルシェ出店 10月12日、13日 若手料理人の講演 10月23日 おけさ柿の講習 新潟青果市場 10月29日 (3時間)		新米給食会 10月30日 米の製粉作業 11月20日 調理実習 米粉の活用 (3時間)			
1月		2月		3月	
米の製粉作業 2月27日 ・まとめ 学園祭での展示 販売 3月8日、9日 レストラン実習での発表 2月14日 (3時間)					
専門家講師の派遣		アグリパーク使用			



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 にいがた製菓・調理専門学校えぶろん

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・「農作業を通して食材作りの意義を学び、素材を生かした料理ができる料理人をめざす。」という目標に合わせ、年間を通して何度かの農業体験を行った。
季節ごとの山の変化や天候、気温などを直接感じることで、米作りの苦労や喜びを十分に感じることができた。
- ・「農業を身近なこと捉え、農家レストランや農業を就職の選択肢に加える」という目標に近づける活動として、米を製粉し米粉に加工し、米粉のメニュー開発を行った。自分たちが育てた米が形を変え、商品になっていくことで、新たな発見ができ、次への課題や目標ができた。

2 主な協力団体・協力者等

- ・宮尾農園 宮尾 様
- ・株式会社渡森 渡辺建太 様
- ・アトリエ キャンティ 川又 真 様
- ・新潟中央青果市場 阿由葉 様
- ・新潟市アグリパーク 様
- ・新潟市食と花の推進課



宮尾農園様 講演



実習田の様子

3 成果

- ・田植え 初めて田んぼに入った学生も多く、最初は戸惑っていたものの順調に作業することができた。
- ・稲刈り 猛暑の中の作業となり、自然の厳しさを痛感する。全員で協力し、豊作となった。収穫した稲穂をはさがけし、後日脱穀を行った。
- ・新米給食会 作ったお米とそれに合う料理を考え全校生徒と喫食した。美味しく食べてもらうことの喜びを実感できた。
- ・製粉 アグリパークで製粉作業を行う。
初めて見る製粉機の組み立て方や使い方を教えてもらい作業する。衛生的な環境の中、丁寧に作業することを学ぶ。米粉のメニュー開発を行う。



新米給食会で渡森社長



アグリパークで製粉



若手料理人からの指導

4 課題

- ・様々な体験を通して農業への理解が深まったと思う。色々な農業従事者の方や飲食業界の方と交流が持てるとさらに視野が深まるのではないかと感じる。



学園祭での米粉メニュー等販売

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	シェフパティシエ専門学校		学年	第2学年（52名）	
教科等	調理総合技術科：フードビジネス，総合技術演習，選択調理実習 製菓製パン技術科：フードビジネス，食育，製菓実習Ⅱ		関連 SDGs	11 住み続けられるまちづくり 12 つくる責任つかう責任	
単元名	地域(新潟市、新潟県)の特産品を活用した商品開発をしよう（70時間）				
ねらい	・新潟市の特産品を料理や菓子、パンの材料に活用して、生産、消費に繋げる取り組みができる。 ・地産地消を意識して原材料の置換を経営的(経費的)な面から商品化をすることができる。 ・規格外の農産物を加工する仕組みを構築し、食品廃棄の減少に繋げる。				
評価規準	【知識・技能】・(概念的な知識)・新潟市の農業の現状について理解している。 ・(新潟市の)食品流通の現状を理解している。 ・(自在に活用する技能)・季節に応じた新潟市の農産物を活用した料理や菓子、パンを製造し、提供することができる。 ・(探究的な学習のよさの理解)・新潟市の農産物について理解することは、持続可能な社会を形成するために必要な知識であることに気が付いている。 【思・判・表】・(課題の設定)・新潟市の農産物について関心を持ち、活用するイメージを持っている。 ・(情報の収集)・新潟市の農産物を活用することを目的として、必要な情報を収集し、蓄積・整理している。 ・(整理・分析)・商品開発(新潟市の農産物を活用したレシピ考案)ができています。 ・(まとめ・表現)・食を通じて、新潟市が魅力ある街(政令市)であることを発信している。 【主体的に学習に取り組む態度】・(自己理解・他者理解)・新潟市や地域の魅力に気づき、自分が調理や菓子、パン製造を通じてできることを考えている。 ・(主体性・協働性)・商品開発(レシピ考案、調理、製造)を周りの意見も聞き、取り入れながら作成している。 ・(将来展望・社会参画) 就職した店舗で新潟市の食材を活用した料理や菓子、パンの提供をしている。				
4 月		5 月		6 月	
・新潟市の食と農に関する講話を依頼 (講師依頼) 【まわりも】 (1時間)		・生産者の方に講話を依頼(講師依頼) 【まわりも】 (1時間)		・考案したレシピの学内および姉妹校への販売【まわりも】 【みんなも】 (10時間)	
		・地産地消のためのレシピ考案【未来も】 【まわりも】 (10時間)			
(4月)専門家の情報提供		(5月～6月)専門家講師の派遣		(9月) 専門家講師の派遣 交通費の支援	
報償費 (動画説明のみ)		報償費 JA職員 無償 (2回実施)		報償費 使用料及び賃賃料 流通業者 無償 バス代 60,000円 (30000円×2学級分)	
10 月		11 月		12 月	
・食花マルシェで考案したレシピの販売【未来も】 【まわりも】 【みんなも】 (10時間)		・学園祭に向けたレシピのブラッシュアップ【未来も】 【まわりも】 (15時間)			
・最前線で活躍する調理師やパティシエによる講話を依頼(講師依頼) (3時間)				・学園祭での学習や成果の発表・販売【未来も】 【まわりも】 【みんなも】 (15時間)	
専門家講師の派遣				学習成果の発信	
報償費 (調理「若手料理人コンテスト受賞者による講演」 製菓 卒業生講話予定) 調理師(若手料理人コンテスト)1名 (市事業)、パン職人1名 7,600円					



SDGsで3つの視点を

未来も
まわりも
みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 シェフパティシエ専門学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

調理・製菓の専門学校としての学習ポイント

① 食の専門家として知識、技術を深められる学習機会とした

- ・授業カリキュラム上、製造、加工に関する授業が多く、食品の生産、流通について学習することにより、消費者へ食品が届くまでを一体的に理解できるように、関連授業において授業を設定した。

② 新潟市(地元)について学習する機会とした

- ・当校の学生は県内出身者がほとんどで、下越地域から通っている学生が 5 割程度である。就職先も県内が中心であるため、新潟市および地元で様々な農産物が生産、流通がされていることを学習し、地産地消の観点で学生の重要な学びになるようにした。

③ 市産食材を活用した商品、レシピ作成を学習のまとめとすることとした

- ・年間を通じて学習したことを、食花マルシェ、学園祭において、商品の販売、提供をすることとした。
- ・学園祭では、料理では規程食材の使用を課題としてレシピを作成した。
- ・学園祭にて、年間のまとめとして、学習内容をポスター作成し、活動内容を発表した。

④ わくわく SDGs 学習実施校への協力

- ・実施校（内野小学校、大鷲小学校、小合中学校）からレシピ考案のアドバイス、考案した菓子の試作の協力依頼に対して、当校教員の協力により実施することができた。

2 主な協力団体・協力者等

JA かがやき直販課 様、新潟中央青果株式会社 様、新潟ミートプラント 様、新潟市食肉衛生検査所 様、新潟市中央卸売市場 様、新潟市食と花の推進課 など

3 成果

<年間学習内容>

写真	学習・活動内容
	◆新潟市の農業の現状について講話【まわりも】 JA かがやき直販課 様による、新潟市の農業の現状と、JA の役割について講話を実施した。
	◆校外授業【まわりも】 ・新潟市内の食に関わる施設を訪問(新潟中央卸売市場や新潟市食肉センターを訪問) ・二次産業、三次産業まで学習することができた。
	◆食花マルシェ【まわりも】【みんなも】【未来も】 ・前期までの学習を通じて、市産食材を活用した商品を考案し、販売を行った。 ・様々な市産食材について知ることができた。
	◆シェパ祭(学園祭)【まわりも】【みんなも】【未来も】 ・学園祭において、作品展示、提供商品、学習ポスターを通じて、学習のまとめ・発表した。
写真掲載なし	◆実施校への協力【みんなも】 ・内野小学校、大鷲小学校、小合中学校でのレシピ考案のアドバイス、菓子の試作をした。

4 課題

- ・横断的な学習の題材として、わくわく SDGs 学習に取り組んだが、各授業との連携を再構築する必要がある。
- ・カリキュラム、農繁期の関係で、農業生産の学習の機会を設定することができなかった。1 次産業～3 次産業までを学習できるよう設定したい。

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施計画

学校名	新潟医療福祉大学		学年	健康栄養学科第3学年（43名）	
教科等	公衆栄養学Ⅱ・公衆栄養学実習Ⅰ		関連SDGs	3 すべての人の健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに	
単元名	公衆栄養プログラムの作成（30時間）				
ねらい	自治体の健康・栄養課題を解決する公衆栄養プログラムづくりの中で、新潟市の食と農を活用した事業提案（4つのライフステージ：乳幼児期・学童思春期・成人期・高齢期）ができる。				
評価規準	【知識・技能】・（概念的な知識）新潟市の優先的な健康・栄養課題を抽出し、その解決のために「新潟市の食と農」が重要な役割を果たすことが理解できる。 ・（自在に活用する技能）健康づくりは個人の努力だけではなく、食環境づくりが重要であることから、「食のアクセス（直売所、スーパーマーケット、飲食店など）」と「食の情報（家庭、保育所、学校、事業所、地域の茶の間などでの食教育）」の実際について、新潟市をフィールドに学び、考えることができる。 ・（探究的な学習のよさの理解）自治体を新潟市に絞ることにより、健康・栄養課題、要因分析（食行動・環境）、食と農に関する情報をより専門家から学ぶことができる。 【思・判・表】・（課題の設定）ライフステージ別に新潟市の優先的な健康・栄養課題を設定する。 ・（情報の収集）新潟市の健康増進計画、食育推進計画、母子保健計画、データヘルス計画、高齢者保健福祉計画、新潟市の各種統計、関連論文から情報収集する。 ・（整理・分析）プリシード・プロシードモデル（ヘルスプロモーション活動企画・立案・実施・評価のためのフレームワーク）を用いて整理・分析する。 ・（まとめ・表現）公衆栄養プログラムの発表・討議を通じて、理解を深める。 【主体的に学習に取り組む態度】・（自己理解・他者理解）グループ作業を通じて、自らの役割を理解し、メンバーと協力して、プログラムづくりに関わることの必要性が理解できる。 ・（主体性・協働性）グループ作業に自ら主体的に関わりと同時にメンバーとの役割分担や意見交換を通じて、協働作業の重要性が理解できる。 ・（将来展望・社会参画）学生提案の公衆栄養プログラム（子供～高齢者）が、今後の新潟市の持続可能な地域（まち）づくりに役立つことが実感できる。				
4月		5月		6月	
7月		8月		9月	
1. 新潟市の優先的な健康・栄養課題を設定する。 (10時間)		2. 健康・栄養課題に関連する行動や地域の環境について調べる。 ・新潟市職員を講師に迎え、新潟市の地産地消、自給率を学び、持続可能な農業の意味を理解し、健康づくり事業との接点を見出す。 (10時間)		3. 健康・栄養課題に関連する要因を分析する。 ・地元北区の直売所、農家（トマト・すいか）の見学、体験を通じて、食と農に関する生産や加工販売の経営側の視点を学び、健康づくり事業との関連を探る。 4. 公衆栄養プログラムを企画立案する。 5. 全体発表・討議を通じてプログラムの学びを深める。 ・学生間の討議と新潟市食と花の推進課の方から講評をいただき、健康づくりと食と農を関連づけた実効性の高い事業提案ができる。 (10時間)	
専門家の情報提供		専門家講師の派遣		交通費の支援	
		報償費		使用料及び賃賃料	
		市職員 無償、直売所店長、トマト農家、スイカ農家の方 @5,000円×3人		バス代 38,000円	
10月		11月		12月	
1月		2月		3月	



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

令和6年度 食と農のわくわく SDGs 学習 実施報告書

学校名 新潟医療福祉大学

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・ライフステージ別（乳幼児期・学童思春期・成人期・高齢期）に新潟市の優先的な健康・栄養課題を抽出し、その解決のために「新潟市の食と農」を生かした事業提案（公衆栄養プログラムづくり）ができるように体験型学習の機会を設けた。
- ・対象自治体を新潟市に絞ることで、健康づくりに欠かせない食環境づくりの実際、「食のアクセス（直売所、スーパーマーケット、飲食店など）」と「食の情報（家庭、保育所、学校、事業所、地域の茶の間などでの食教育）」の両面を、調べ学習と専門家から学べるようにした。
- ・大学のある北区の農家や直売所の方から、日頃、重点的に取り組んでいることや苦労していることなどを直に学び、食に関する生産、流通、加工・販売の一連の流れを理解したうえで、健康に配慮した食環境づくりの事業提案ができるよう企画立案の際の参考にする。
- ・発表会では、新潟市食と花の推進課の方から講評いただくことで、より実践的な事業提案ができるようにした。



大学での事前の調べ学習



農家さんとの交流

【時期】2024年5月～7月

【対象】3年生（41人）

【内容】

- ・新潟市の健康課題（子どもの肥満、成人のメタボ、高齢者の低栄養など）を解決する公衆栄養プログラムの作成（事業提案）
- ・条件は北区の農産物（米、野菜、果物）の活用

2 主な協力団体・協力者等

- ・わくわくファーム豊栄店 店長 筑井和男様
- ・(株) 豊栄わくわく広場 社長（トマト） 長井憲太郎様
- ・スイカ、メロン農家 南 善範様
- ・新潟市食と花の推進課

3 成果

- ・新潟市食と花の推進課の専門家（管理栄養士）や農家さん、直売所の方からの学びは、授業だけではイメージしにくい「食のアクセス」「食の情報」の実際について、理解を深めることができ、公衆栄養プログラムづくりに役立った。
- ・発表会では、学生の発表に対して、新潟市食と花の推進課の職員2名から課題解決の方法や実現可能性などを講評いただき、より実践的な事業の組み立て方のポイントが理解できた。
- ・学生アンケートの結果から、本事業に参加して健康づくりに必要な「食環境づくり」「食と農の連携」の意義が理解でき、有意義であったとの声が多数聞かれた。
- ・地元北区の農家さんや直売所の方との交流を学生が学科ブログとして発信し、アクセス数も多かった。



地元北区の農家さんや直売所での講話や体験



4 課題

- ・授業（公衆栄養学）の特性上、SDGsの17目標のうち、目標3（全ての人に健康と福祉を）と目標4（質の高い教育みんなに）が中心になるが、今後は食料自給率や食品ロス問題とも関連づけて実施したい。
- ・学生には授業後にも、若者目線で地場産の野菜や果物の消費拡大につながる活動（ボランティア活動など）に積極的に参加して欲しい。
- ・農家さんや直売所の方に積極的に質問するための事前準備を十分行う。

令和6年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施状況

学校名	新潟国際情報大学	学年	第1～4学年（有志12人）
教科等	SDGs食と農プログラム	関連SDGs	2 飢餓をゼロに 11 住み続けられるまちづくりを
単元名（テーマ）	- 生産性向上と持続性の両立に向けたスマート農業のあり方とその実践 - 地域資源を活用した第6次産業の創出と経営戦略 - 自然農法による農業の可能性		
ねらい	地域社会のありかたを創造できる人材育成		
評価規準	※学生を主体とする授業外の自主的な活動であるため、評価規準は設定せずに行っている		

4月	5月	6月	7月	8月	9月
食と農のSDGs学習説明会の開催（4月25、26日）	宮尾浩史氏講演会「自然農法による農業の可能性について」5月31日（出席者38名）	宮尾農園田植えワークショップ参加6月9日（参加者12名）	- ボリス・ボヤスキー氏講演会7月5日実施「ITを利用したスマート農業」（出席者12人） - 宮尾農園草取り7月7日実施（参加者6名） - エンカレッジファーマーミング7月20日実施（参加者7名）	八兵衛農園視察（五泉市）8月11日実施「無肥料、無農薬による畑作と6次産業」（参加者7名）	

10月	11月	12月	1月	2月	3月
	「フードメッセ in にいがた」見学11月6日 - そら野テラス視察11月10日実施（参加者5名）			- 成果発表会2月4日開催 - 湯田竣莉君「食農プログラム活動報告—農業に対する提案と考える—」 - 内田ゼミ「自然栽培を若い世代に—アグリ・スタディ・プログラム×自然栽培」	

専門家講師の派遣

交通費の支援（タクシー代）・講師謝礼金

講師謝礼 宮尾浩史様 14,600円（宮尾農園）
ボリス・ボヤスキー様 7,600円
近藤史章様 14,600円（エンカレッジファーマーミング）
藤田友和様 14,600円（そら野テラス）※経費支援は13,200円



SDGsで3つの視点を

□ : 未来も
 □ : まわりも
 □ : みんなも

令和6年度 食と農のわくわくSDGs学習 実施報告書

学校名 新潟国際情報大学

1 本単元作成のポイント、留意点等

本学の基本理念の一つが「地域社会のありかたを創造できる人材育成」である。この点に鑑みると、新潟という地域の基幹産業である農業の将来は地域社会のあり方そのものであるとも言える。また、農業とは直接関係のない本学ではあるが、スマート農業、第6次産業といった分野は、実際には本学の教育内容とも極めて整合性が高く、今回の新潟市のプログラムとの連携によってこの分野に有為な人材を送り出せる可能性を有している。2～3年ほどこのプログラムを実施した後、後述するビジネスモデルに大学として取り組めるようなものになっていくことが期待される。令和6年度は、これに付加する形で自然農法による農業の取り組みについても座学と実地での体験を行うことができた。自然農法は農業の持続可能性という意味で今後非常に重要になってくるものであり、SDGsプログラムとして今後も取り入れていきたいと考えている。

2 主な協力団体・協力者等

- ・宮尾浩史様（宮尾農園）
- ・藤田友和様（そら野テラス）
- ・近藤史章様（エンカレッジファーム）
- ・ボリス・ボヤスキー様（新潟大学）
- ・塩原様（農園八兵衛）



宮尾浩史氏の講演

3 取組み

* 講義

- ・スマート農業の技術やその応用、課題について。
- ・6次産業と事業展開。
- ・自然栽培による農業への取組みと可能性について。

* 現地視察

・宮尾農園田植えワークショップ参加：

宮尾氏の自然農法に賛同する地域の方々と国学院大学の学生が長年実施してきたワークショップに本学の学生、教員が初めて参加した。20年以上にわたって無肥料・無農薬栽培を行ってきた水田に実際に入って、手で苗を植えるという大変に貴重な体験ができた。作業後は田植えを行った人たちが一堂に会して、感想や



ボリス・ボヤスキー氏の講演

自分にとっての意義を述べ合った。その後、自然農法によって栽培された米を昼食として頂いた。ワークショップはその後、草取り、稲刈りと続き、都合のつく学生、教員が参加した。

・エンカレッジファーム視察：

昨年度に引き続きの視察。室内の温度、湿度、陽射しなどを制御システムで管理する「環境制御型栽培ハウス」の見学と併せて、事務所において近藤氏と質疑応答を行った。

・そら野テラス、そら野ファーム視察：

藤田氏より会社概要説明を受けた後、顧客、出品者との関係、農業業界における制度上の課題等について、様々な角度からの話を伺うことができた。



エンカレッジファーム視察

・農園八兵衛視察：

サツマイモ、トマトを中心とした自然栽培野菜の栽培と出荷を行う。塩原氏から、無肥料、無農薬での畑作についてと農業経営上の貴重な話を伺うことができた。合理化・利益の追求といった経済効率を優先した農業とは全く別な哲学に基づく農業は、例えばエンカレッジファームとは極めて対照的なものであり、農業の多面性を学ぶ機会となった。



農園八兵衛の視察

4 成果報告会【2月4日（土）13：00～】 *プログラム参照

- ・湯田竣莉：食・農プログラムの活動報告—農業の課題について—
- ・内田ゼミ（3年）：自然栽培を若い世代に—アグリ・スタディ・プログラム×自然栽培—

5 課題

今年度は、2つの講演と3カ所の視察、それにワークショップへの参加という、大変充実した内容となった。しかし、昨年度と同様、学生の参加者が少ないという問題は改善しないままであった。この点を踏まえ、また内容的にも更なる充実を図るために、本学の基礎科目である「ラボ」という学外での活動に主眼を置いた自由度の高い科目の中に、本プログラムを組み入れることとした。4月の学年別ガイダンスにおいて、この科目（プログラム）の説明を行う。



**食と農のわくわくSDGs学習
令和6年度実施校 実践事例集**



SDGs 新潟市
未来都市

**発行者 新潟市教育委員会学校支援課
新潟市農林水産部食と花の推進課**

発行日 2025 年 4 月 30 日
